

附馬書

大正四年拾月廿五日接受

大正四年十月二十三日

駐政務

第課

横濱正金銀

後及以得付理 武内金平

神受9198

1915

外務大臣男爵石井菊次郎

稱設漢治洋行、通惠公司、對免保  
款、仲之閣、上海齊文店、並之日、大野  
今計、款、同、物、子、別、紙、寫、通、り、振、書、石  
之、更、買、居、之、供、債、内、覧、頁、 敬、具

大正四年十月十日付

上海支店書記翰寫

漢冶萍公司對通惠分會借款之關係件

右に關シ一昨の電報末段に申上る通り當處より説明ヲ求メ其に對シ本國王國臣來訪シ合同ト其附件トヲ示シ盛副會長ヨリノ傳言トシテ左ノ通り申出ス

北京側ハ頗る之調印ヲ迫ルヲ以テ昨日董事會ヲ開キタリ先ツ一應大野助手ニ相談シタルモ顧問不在中ナルヲ以テ且恰モ昨日

當處ヨリ説明ヲ求メ来リタルヲ以テ直接當處ノ商議政度シ又北京側ニ對シテハ五金銀行、協商政ス一キヲ以テ諾否十日間ノ日延一ヲ申立テ置タルヲ以テ日本ノ意見見電報ニ業知政度シ云々

王國臣ノ直轄ニヨリ其ハ公司ノ財政ハ益逼迫ヲ来スノミナリ今日ノ有様ニハ維持困難ニシテ大冶新爐ノ成立迄ハ何トカシテ此穴躬ヲ免レサレ可ラサルカ為メ公司ハ王子展ヲ北京ニ派シテ通惠公司ニ融通ヲ求メタルモ、テリ而シテ此合同及附件ハ王子展カ通惠ト交渉ノ結果通惠ヨリノ合

同業トシテ齋ニタルモノナリ此系側ハ差ナリ総経  
理トシテ現財政次長趙椿年ヲ擁シ居レリ  
（趙ハ過般孫宝琦ト共ニ今日見合ノ為メ巡廻  
シ来リタルナリ）又附件申第四項ハ盛宣懷ニ  
トリテハ最苦痛トナス所ナルヲ以テ仮リニ本左同  
成立スルトシテモ本項ハ改修ヲ見ルニ至ル（シト申  
速居矣  
尚詳細次候ヲ以テ申述スク本便取急ナ  
付件寫爰許加封由送附申上至合同ハ大  
野助手十五日付書候ニテテ由業知被下至  
事ト存矣

追テ高木陸郎ノ来滬ハ本件ノ為メ蓋シ  
電報ヲ以テ呼ビ寄セタルモノト推察セシム  
茲也

本信寫小田切取録後、送付ナリ

合同

漢冶萍煤鐵廠礦有限公司 下文簡稱 漢冶萍公司 與通惠實業股份有限公司 下文簡稱 通惠公司 訂立借款合同為維持營業之用所有條件列後  
第一款 借款金額訂為通用龍洋壹千貳百萬正

第二款 交款期限一經合同簽字按照第一款金額分四年交足每年攤洋三百萬元由通惠公司照九五交付倘營業進行有礙時得展交付期限  
此款由通惠公司按月如數交與總經理

理

第三款 借款常年利息八厘自交款日起算每年分兩期付息上期為六月下期為十二月在漢口或上海交付通惠公司

第四款 還款期限以十四年為期自合同簽押日起扣至第四年止祇付利息第五年起至第十四年止每年將本息勻攤十為份每年歸還一份漢冶萍公司不得短少

第五款 漢冶萍公司以全體股票茲指明陸續新出之貨物為第一次抵押隨時按照交款數目開具貨物細數保單

并照鈔股冊交存通惠公司

第六款 漢冶萍公司如欲續借款須先  
向通惠公司商議倘不許已有向他處  
借款之必要時商允通惠公司後方  
得向他處提出債務條件如通惠公  
司一方面無正當之理由停付本合同借  
款則漢冶萍不能履行本款之義務

第七款 此合同以本則利還清日為止

第八款 本合同同意義如待解釋時得公  
舉公正人評斷之

第九款 通惠公司為維持漢冶萍公司起  
見籌付借款方法無論何時見為應募  
實業債票所有欠款還款以及計息付  
息扣用担保均仍按照本合同上開各條  
款辦理其發行辦法臨時情商商訂  
之

第十款 此合同照舊五分漢冶萍公司  
通惠公司各執一份其餘三份分陳財  
政農商交通三部立案

附件

漢冶萍公司與通惠公司借款合同附件

第一款 總經理職權應照原電商定有完全用人辦事之權其公司一切組織及章程並須由總經理核定

第二款 漢冶萍公司總經理一職如有變更須由通惠公司選薦照推

第三款 漢冶萍公司現屬華商自辦性質以後如有變更或為全體股東主權之變易應先由通惠公司主持

第四款 漢冶萍公司股東倘將股票轉賣核准通惠公司經售如查出賣與非中國人或將股權私授與非中國人得由漢冶萍公司承銷其股東權利並照違背本國法律辦理由漢冶萍公司董事負其責任

第五款 漢冶萍公司如需向他處包工採辦材料轉運或關於商業上委託代理等事通惠公司應享有優先承辦權但其價值不得貴於他處

第六款 漢冶萍公司屆時不能按照合同

第四款定期還款付息得展期六個月

倘再不能照還應由通惠公司交涉收  
回管理權交債權人執行管理

中華民國四年十月 日

漢冶萍公司ト通惠公司ト借款

契約附属書

第一條 總經理ノ職權ハ前電ニ照シテ商定スル完全ニ用人辦事ノ權ヲ有シ其公司一切ノ組織及事務ハ  
總經理ニ委之ル定ム

外務省

第二條 漢冶萍公司總經理ノ職ニ變更スルハ通惠公司ニ於テ選定推薦スル

第三條 漢冶萍公司ハ現ニ支那人自辦ノ性質ヲ屬スルモ今後變更スルカ又ハ  
全株主ノ主權ニ變更スルカ先ツ  
通惠公司ニ於テ主持スル

第四條 漢冶萍公司ノ株主カ株券ヲ  
轉賣セントスルハ通惠公司ニ限リ



之ヲ取扱フモノヲ許ス若シ支那人ニア  
 ラサル人ニ賣却スルカ又ハ私カニ株主ノ  
 權利ヲ支那人ニ与ラサル人ニ授與シタル  
 モトヲ若クシタルキハ漢冶萍公司ニ  
 於テ其株主タル權利ヲ取銷<sup>(消)</sup>スル  
 ヲ得<sup>ヲ得</sup>其株主并ニ本國ノ法律ニ違  
 背セルモノトシテ 辦理シ漢冶萍公司  
 董事ニ於テ其主任ヲ員フ  
 外務省  
 第五條 漢冶萍公司カ他處<sup>カ</sup>ニ工率  
 受買材料買入、<sup>カ</sup>輸<sup>カ</sup>送<sup>カ</sup> 運輸 其他  
 商業上ニ關シ代理ヲ委託スル等ノ  
 事<sup>カ</sup>ニトキハ 通惠公司ハ第一ニ受買ノ  
 權<sup>カ</sup>ヲ有ス但シ其價格ハ他處<sup>カ</sup>ニ比シ  
 多額ナルモノトシ得ス  
 第六條 漢冶萍公司カ租契約第四  
 條ニ依リ期ヲ定メテ元利ヲ償還スル

能ハルキハ六月ノ延期ヲコトシ但  
ニ再ヒ債務スル能ハルキハ面惠公司  
ヨリ立上ノ管理権ヲ回収シ債権  
者ノ引渡シ管理ヲ執ルセシム  
中華民國十五年十月

外務省

大正四年十月十日

漢治洋行會計顧問助手大野弘

横濱正金銀月

預而井上準之助殿

拜啟

一通惠實業子借款成行ニ于スル件

十五日付弊債ヲ以テ汝報若申上矣通惠  
公司借款一件ニ于シテハ十六日午前申貴行上  
海支店見玉支配人ヨリ当公司カ通惠公司  
ヨリ資金ノ融通ヲ受ケントシツ、アルヲ知  
致矣ニ付テハ正金銀行ハ先ツ第一ニ相漢ヲ  
左傍款内各詳細事情通有之是程斯性質ノ下件有之

受クキモノト思惟スル昔會長宛來債有之  
且本月初メ同支店ニ依願申上債入金ノ内  
来ル二千三百入用、銀控五萬兩ハ貸出方借  
宥被成下本借款ヲ必要トスル目前必需ノ  
經費差當リ間ニ倉ヒ矣為同日午後謝催、  
董事會ニ於テハ別段進ミタル相談ニテク若  
事ハ盛副會長ヨリ見玉支配人ニ回差ツ乞  
フ事ニ相成リ当初隨分急キ居リタル調印  
ノ件ニ一時見合セト相成リ矣猶反謝スル處  
ニ據ル王子展ハ常ニ經費不足ニ苦シムル  
、ヨリ免ニ角調印ノ上何程モ良ニ援助ヲ

度クル方得策ナシトノ意見ヲ抱キ盛氏ニ  
對シ頻々其旨達策致メ共盛氏ハ容  
易ニ賛成セズ丈レ程賛成ナラハ王子展自  
身調印ト申セシニ王子展キハ北島出  
張中同地ニ為ストナレハ然センモ上海  
歸來以後ハ自身ニ於テ調印為シ難ク此場  
合ハ盛氏ヨリ調印サルキモノナリト申シ兩氏ノ  
間ニ一ニ往答アリタリト申傳、唐英要スルニ  
盛氏ハ如何ノ回答ヲ送付スルヤ如何ナル態度  
ニ出ソキヤ豫メ斗リ難キモ本契約案カ後  
未締結サレタル若種契約ノ精神案文ニ  
及シ為メニ從來保持サレタル貴行對當公  
司間ノ深厚志干係ニ度少キ結果ヲ望ム  
ル恐無シト云現ニ見玉支配人ヨリ照會  
モアリ英事トテ輕々ニ調印スル様ノ事モナ  
カルヘク結局ハ此條ニ放棄ヤレハカ差シクハ  
成立セル場合モ條件金額等ニ大変化ヲ  
加ヘラレタル後ト可相成モノト愚考致メ  
先ハ不取敢事候ノ模様由報告申上友  
如手内新、敬具

9200號

附屬書類

大正四年拾月廿五日接受

大正四年十月三十日

横濱正金銀行

總支店代理 武内金平

力  
外務大臣男爵石井菊次郎殿

拜啟 漢冶萍公司、通惠公司借款ノ件ニ

關シ別紙寫ノ通り上海滄支店、電報

致ス同為ニ供債内覽候 敬具

上海支店宛電信寫

漢冶萍公司一言明セヨ漢冶萍公司通惠公司  
間借款契約案、其精神ニ於テ明カニ當方  
ト同公司間、往來、契約、趣旨ニ遠及レ候  
テ兩者、密接ニ關係ヲ乱サントスルモノナルノミ  
ナラス其借款、担保トシテ規定シアルモノニ既ニ  
悉ク當方ニ對シテ担保ニ提供シアルモノニシテ又  
第六條第七條、全ク往來、契約、條項ニ  
抵觸スルモノナリ故ニ斷シテ承諾致シ難シ

附屬書類附

大正四年拾月廿五日接受

大正四年

十月廿三日

横濱正金銀行

徳五郎人心得代理部内全平

外務大臣

田中右井菊次郎殿

復

秘受9202

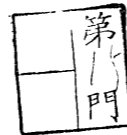
拜啓漢法洋行司對通惠公司借款之件  
：閣下別紙圖、通、貴上海支店、了、電報  
有之候、其、為、借御内覧候、敬具

上海支店来電

(十月廿二日上海發)

高木陸郎依頼：此段電報致候孫宝琦、  
盛宣懷、向々通惠借款附帶條件、内部、  
關係、日本、關係ナキモ、ナレハ日本側：示スル  
要件對ニ無之候旨電報有之候就テ、日本附  
帶條件、後廻ハントシ先ツ成ルヘリ、本合同：對シ  
抗議セラル、様致度、本文第五、第九明ニ日本  
、既得權抵觸シ居ル様ニ當方：於テモ條約  
文改中ナルカ、尚御意見至急返電、右盛宣  
懷依頼、此段電報、高木陸郎、此旨小田切

系毒、助、電報セリ



THE YOKOHAMA SPECIE BANK, L'D.  
YOKOHAMA.

初受9250號

大正四年拾月廿六日

大正四年十月廿五日

横濱正金銀行

外務省

小池政務局長殿

總支配人心得代理武内金平

為該銀行與本公司ノレノニ云云  
 電據：對之紐音白信自狀後行  
 庭身印合中上其趣言：流り左ノ函ヲ幣以上海  
 又此ノ電報後流主以ノ信承答ニ五ヒ下取信  
 亦自上海之紙印々控(六)後  
 此信ニ而亦三号申出紐音白信自狀後行  
 甲

9,000 July 1916.





附屬書類

大正四年拾月廿七日接受

大正四年十月廿七日

横浜正金銀行

外務大臣

男爵石井菊郎 啟

總支配代理 武内金平



第1門 1444

Spae

秘受9272號

揮啓通惠實業公司對漢冶萍公司借款  
三圖三件、自漢冶萍公司會計顧問助手  
藥師小田切取歸後、上海支店より去々  
別紙、通、報告有之、同茲之供御、因

覽本 敬具

横濱正金銀行

通惠第百四十九號

大清四年十月十八日

於北京支店

本店

取締役 小田切美壽之助

通惠實業公司對漢冶萍公司借款

通惠實業公司對漢冶萍公司借款

關於此件

通惠實業公司、漢冶萍公司、對、資金貸出申  
込、此件、關於、去十月十六日上海支店、在、通、電報  
有之候

漢冶萍公司目下、窮迫財政救済、在、通惠

公司、漢冶萍公司、公司株券、象鼻山高  
坑産出鑛物、概當一千二百萬弗、借款、王子  
居北京、於、大總統、内相談、遂、歸着、  
上、公司、對、親印迫、居候由、大野、以、  
本月十五日書信、委細申述置候、然、高  
亦陸郎、以、兼知致候、屢、之、右、大總統、  
據、於、盛宣懷、所有株券、取、上、ケル手  
段、有、ト、リ、盛宣懷、契約、拒絶、方法、研  
究、中、ト、リ、候、當、店、右、關、公司、對、親  
明要、亦、致、意、ナ

當夜、信、通惠實業公司、關係、有、政事

堂在重揚土琦、亦行、於、岡、藤田貴族院議  
負渡辺日佛銀行取締役、仙石前、鎌道院、總裁  
歡迎、宴會、出席、本役、前記電報、接到  
之旨、告、其事、賓、有、無、尋、不、免、慶、全、人、

是、先、盛、宣、懷、漢、治、洋、支、持、為、政、府、接  
助、出、願、也、了、其、後、通、惠、設、立、報、接、通、  
惠、對、之、亦、同、様、申、出、ヲ、ナ、レ、タ、ル、以、通、惠、於  
種、々、相、談、後、巨、額、の、資、金、或、條、件、ノ、下、  
貸、與、ス、ル、一、義、諾、セ、シ、次、第、ナル、カ、右、資、金、一、時、  
支、出、ス、ル、モ、ニ、ア、ラ、ス、期、限、ヲ、今、今、交、付、セ、ト、ス、ル、モ、ナ、リ、其、  
担保、ト、シ、テ、如何、古、物、件、ヲ、要、求、シ、マ、ル、ヤ、自、分、

詳知セサル所ナリ

ト答、右借款計劃、事實ナルヲ告白セシニ、本役、  
通惠、現状ヲ見、到底巨額ノ資金、漢治洋、  
貸與シ得ル餘裕ナレ、或、通惠、於、外國、資金ヲ輸  
入、之、以、漢、治、洋、轉、貸、セ、ト、ス、ル、計、劃、ト、モ、疑、ハ、ル、  
者、陳、ハ、タル、概、

日支交渉ノ結果漢治洋、他、外國資金ヲ入  
セサル、ト、ナ、リ、シ、テ、直、接、間、接、ニ、此、如、キ、違、約、  
舉、ニ、出、ツ、ル、ヲ、ナ、ケ、レ、ハ、此、其、十、分、安、心、セ、ラ、レ、タ、シ、且、既、  
陳、ハ、通、前、記、借、款、一、時、支、出、ス、ル、モ、ニ、ア、ラ、サ、レ、ハ、  
通、惠、ニ、於、テ、自、之、ヲ、籌、備、ス、ル、方、法、アリ、

ト通惠ノ借款準備案件ニ何等外國資金ヲ包含セ  
シテ一國シテ再三確實ニ否認同時ニ其資金ニ  
融存ニ於テ融通モトスルノ計劃ニテラサレカト思ハル  
如キ語氣ヲ洩シ候。是ニ於テ亦後漢治洋ノ日本  
間ノ密接ナル關係ヲ認識シ支那政府ノ漢治洋  
ニ對スル態度ノ慎重ヲラサレテ述ヘ更ニ語ヲ  
續キ今ヤ通惠ノ所為茲ニ出ラス日本側ニ對シテ何  
等真情ヲ洩サシテ漢治洋ニ對シテ借款ノ強  
要ス或ハ恐ル此レカ為日本側ノ要感ヲ排斥シ意  
外ノ紛糾ヲ惹起ス至ルトト非難的論鋒ヲ向ケ  
ル處相

否、自分ノ見ル所ニ據ルニ事ヲ結果ニ及テ日本側ノ  
好感ヲ博スルニ至ルヘシ。原本漢治洋ノシテ今日ノ  
状態ニ至レバタルニ盛ナルカ同人ニシテ公司ノ實権ヲ  
握ル間ノ到底之ヲ整理スルノ道ナク又之ヲ整理  
セントセバ資金<sup>供給</sup>ニ必要トス。是ニ於テ通惠ノ資金ノ  
供給ヲ申込ニ同時ニ其實権ヲ握ラシメテ希  
圖スルモノニ似タリ。此計劃ニシテ満足ニ遂行セラル  
ハ、公司ニ在リ宿弊洗除營業發展、利ヲ  
日厚資本家ニ在テ担保ニ強固トシテ借款ニ利  
支拂ニ正確トナルニ益アルヘシ  
更ニ一歩ニ進ノ漢治洋ニ資金共同體ニ同シ

一言を以て原素本問題に因り絶對的及對、  
鼓吹せしむ。實に盛宜懐其人に於て其人の實  
権を掌握する間に到底之を遂行せん、望むに於て  
然るに前記通惠の計劃に於て首尾克く成就せ  
、其實権を通惠の手に移り、又通惠の本部に  
北京に在るか爲他日合弁問題、再弁せし場合  
に各方面間、協議と容易に於て復々過去に於て  
見たりし如き障礙、弊ナカルヘシ

ト纏々陳述致候に、本役折返し然らば一言以て  
之を敵に、今回、計劃に盛、實権を利奪し、公司  
の整理を、漸行せしむるに、ナリト評し、之を差支ナキヤ

ト尋ねタル處、楊の其通りナリト首肯致候

尚ホ本役楊の對し漢冶萍問題に因り日支間之  
意思、疏通ラズ、在モ忌ムヘキナラハ、以テ今回  
西支司文海、進行状態に追テ通惠支司當事者  
者に就テ詳詢致度、其旨彼等ニ申聞被置  
度旨請ホセシ、同人之ヲ快諾シ、直に當夜列席  
セル旨、假總裁孫多森及漢冶萍の總修程  
候補者趙椿年、對シテ之ヲ申渡シ、右兩人等  
に本役に向、其命令ヲ受ケタルヲ告知致候  
是より先テ孫宝琦、弟ニ次旅泊、終りテ歸京  
セル際、同人に面會シ、支司本役、漢口に移る向

題、成行、叩、タル、同人、公司、普、事、中、本、問題、  
賛成セラル、多シ、多分、依然、盛、カ、公司、ノ、実、権、ヲ  
掌握セントスル、意向、ニ、根據、スル、モノ、ナラ、ント、意味、有、リ、氣  
ニ、存、又、公司、ノ、總經理、タル、ヘキ、趙、椿、年、一、其、後、赴  
任、ノ、状、ナリ、依然、中、至、銀、行、會、弁、貨、幣、交、換、所、  
總、弁、ノ、職、ニ、居、据、リ、居、ル、等、政府、官、ノ、漢、語、ヲ、譯、シ、  
對、ス、ル、方針、ニ、其、端、倪、ヲ、知、ル、ニ、苦、シ、候、處、彼、等、其  
間、在、右、借、款、計、劃、ヲ、定、メ、タル、モノ、ト、見、エ、王、府  
善、ヲ、上海、ヲ、招、キ、之、ニ、策、ヲ、授、ケ、盛、宣、懷、ヲ、慰、  
進、シ、ラ、之、ヲ、公司、ノ、権、力、圍、中、ヲ、驅、逐、シ、去、ラ、ント、モ、又  
盛、ハ、此、計、劃、ヲ、知、之、對、功、ス、ル、方、畧、ヲ、講、シ、テ、  
アル、モノ、如、ク、何、レ、モ、策、士、ノ、寄、合、セ、ル、今、後、成、行、如  
何、可、相、成、式、確、ク、豫、想、ヲ、下、シ、兼、任、以、來、有、  
之、也、但、大、伴、ニ、就、キ、觀、察、ス、ル、ニ、袁、世、凱、楊、士、琦  
ニ、共、ニ、盛、ニ、對、シ、好、意、ヲ、有、ス、盛、ノ、親、戚、タル、孫  
寶、琦、ニ、前、記、ノ、如、ク、彼、ニ、全、幅、ノ、同情、ヲ、捧、ケ、ス、又  
永、年、袁、盛、ノ、間、ヲ、調、和、セ、シ、王、存、善、モ、亦、諂、懺、ヲ  
鮮、明、ニ、シ、ラ、通、惠、側、ニ、立、テ、シ、有、橋、ナ、シ、ハ、盛、カ、此、間、  
ニ、慶、シ、ラ、勝、利、ヲ、得、ル、一、到、底、勝、者、ト、シ、レ、ハ、ク、假  
ニ、盛、ニ、シ、ラ、一、時、ノ、小、康、ヲ、得、ル、モノ、ト、ス、モ、永、ク、之、ヲ、持  
續、ス、ル、計、畫、ヲ、カ、ル、ヘ、シ、ト、被、思、候、向、者、日、々、交、渉、ノ、際、  
盛、於、右、會、弁、ニ、賛、成、ヲ、表、シ、喜、び、司、於、ケ、ル、全、財

存の舉げたり日帝側ノ保護ニ一任セザリシ結果遂ニ  
今四年事ニ慥ニ存生スルニ至リシニ自業自得ト評  
ス外無ニ修

本偽款事件ニ對シ楊士琦ノ説明ニ多少  
察理ノ見ルヘキモアリト云彼ニ通惠ノ提供ト  
スル資金ノ出處ニ問ヒテ何ぞ言明セサルニ大ニ注  
意ヲ要ス所ニ有之候思フニ通惠公同ニ於テ  
此五三年間ニ民間ヨリ千數百萬元ノ株ヲ募  
集セントスルノ容易ニアラサルヘリ又債者ヲ存行  
シテ巨資ヲ吸收センノハ對無望ナルヘリ何レニ  
テモ政府ノ資金ニ依ルテラサレハ本偽款ノ契約

ノ履行スル能ハカレハ若シ果シテ然ラバ政府ニ通惠  
ノ名ニ於テ漢法洋ヲ奉テ實國有トセントスルモノニ  
シテ日支協約ノ精神ニ違背スル結果ヲ生シ修  
ニ有輕々看過スヘキ事態ニ無ニ修右資金ノ  
出處ニ問ヒテ不日露等ニ面會ノ際出未得ル  
ルニ其真相ヲ探詢スヘキモ彼等ヨリ要領ヲ得  
ル由クヲ得ルノ難事トシテ想像致居ル  
右々御報告候敬具

(大野助子報告)

一、通惠公司借款問題真相

昨年七月歐洲戰爭發生以來レール及附屬品ノ賣行非常ニ不振ヲ極メ且戰爭發生以前賣上ガレ代金モ容易ニ回收スル能ハズ隴泰海鐵道賣掛金ノ如キ一町六十餘万兩ノ多額ニ上リサナキガ、因附ル公司財政状態ニ層々窮乏ニ陥リタルが幸ニ通商滙豐銀行ヨリ前後約四十万兩正金銀行ヨリ廿七万兩ノ借入金ヲ得テ漸クシテ本年ニ入ルヲ得タルモ不振ノ状況依然トシテ變ラズ二月ニ入り正金銀行ヨリレール租保ニテ前掛ニ回三十萬兩ノ借入金ヲ爲シ其後ノ経費不足ヲ補ヒ来レリ、

従来此際政府對盛宣懷標上ノ干渉ハ因滑ヲ欠キ加フル、況未宣統三年盛宣懷が郵傳部尚書時代公司保費ノ意味ヲ以テ前渡サレレール代金洋例額ニ百萬兩ハ其ノ望年ヨリ毎年四十万兩免返満スベキ約ナリレ、不約一回モ

履行シタルトモ其滞り利子ノミニテモ四十餘万兩ニ上リ且此際政府自身財政困難ナリ隴泰海鐵道ノ如キ特別ノ干渉アルモノレール代金トモ之ト是列クテ之ニ強スルトナラ有標ナリレ以テ公司ハ會計所長干該年ヲ此際ニ派シ約半年居括リミテ各方面ニ懇話運動ノ結果隴泰海鐵道ノ分文ハ差引カザルノ點認テ得タルモ同鐵道自耳義借款ハ歐洲戰爭ノ劣之ヲ得ル能ハズレ支拂ヲ受クルヲ能ハズ且他國有鐵路ノ賣上ノモノニ付テハ交通部ニ依送前渡金ト差引扣除スルヲ主張スルヲ以テ仮令賣上ゲトモ收入キテ以テレール支付セズ徒ニ堆積ヲ増加スルノミニテレール及附屬品ノ營業ハ非常ニ不振ニ陥リタリ、  
元來本年賣掛算ニ依ルレール及附屬品ノ全年賣上ノ億計約百七十八万兩毎年約百五十万兩ヲ賣スルモ



青道、發行、僅、物、兩、後、追、不、之、が、為、會、計、可、者、及、他、怪  
贖、代、理、者、心、ま、つ、べ、か、ん、と、陰、謀、毎、日、十、五、日、末、之、文、據、日、迄、  
金、策、ワ、カ、ザ、ル、時、ハ、飛、奔、ノ、私、想、ヲ、為、シ、漸、ク、又、拂、ロ、フ、怪、過、ス  
ル、時、ハ、一、息、ホ、ツ、ト、ツ、ク、有、形、ナ、リ、キ、

怪、勢、ハ、滋、斯、ク、ノ、如、シ、テ、其、由、リ、テ、未、ル、事、主、ト、レ、レ、ル、ノ、矣  
上、之、況、ニ、中、キ、其、之、況、ナ、ル、ハ、買、キ、シ、ル、也、亦、政、府、ノ、財、政、困、難  
ニ、起、因、ス、ル、ノ、ミ、ナ、ラ、ズ、ガ、司、ガ、世、系、政、府、ニ、對、シ、テ、負、ヘ、ル、債、務、  
之、履、行、ト、政、府、對、外、司、ノ、干、預、從、來、兎、角、因、滑、ヲ、欠、キ、成、リ  
シ、為、事、一、區、ヲ、レ、テ、一、層、之、利、ヲ、レ、シ、メ、ガ、中、者、偏、リ、又、文、涉  
起、ル、及、政、府、例、モ、多、司、ノ、監、督、ヲ、感、ジ、タ、ル、情、果、双、方、  
好、キ、孫、室、所、以、入、社、ス、ル、ニ、至、リ、シ、モ、孫、氏、自、ラ、來、リ、テ、年、  
高、ル、ヲ、便、ナ、ラ、ザ、ル、事、中、情、ア、リ、シ、ヨ、リ、先、キ、財、政、ハ、長、ク、シ、  
趙、椿、年、氏、臨、任、理、タ、ル、ベ、ク、内、定、セ、ル、モ、ニ、テ、兩、果、隴、泰

諒、情、ノ、賣、掛、金、全、部、回、收、ス、ル、ヲ、以、テ、川、粵、漢、鐵、道、之、供、給  
ス、ル、レ、ル、ハ、二、三、年、差、引、キ、八、分、文、ハ、拂、返、ヲ、受、ク、ル、ト、ナ、リ、一、時  
稍、餘、裕、ヲ、生、ジ、タ、ル、モ、九、月、未、及、本、月、九、日、川、粵、漢、鐵、道、中  
年、が、賣、上、分、ニ、對、シ、中、玉、交、通、兩、銀、行、ヨ、リ、二、十、四、万、兩、ヲ  
借、入、シ、テ、後、ハ、レ、ル、賣、上、之、況、ヨ、リ、未、ル、怪、費、亦、是、ヲ、補、フ  
ノ、道、々、キ、ニ、至、レ、リ、

抑、モ、孫、趙、兩、氏、ノ、入、社、ハ、多、司、例、ヨ、リ、凡、テ、依、リ、テ、為、シ、ト、ス、ル  
目、的、多、ク、ニ、ア、ル、ベ、キ、モ、賣、ス、ル、ニ、政、府、干、預、ヲ、因、滑、ミ、シ、差、違  
リ、ハ、怪、費、ノ、文、據、ヲ、免、レ、シ、ト、ス、ル、ニ、ア、ル、ハ、疑、フ、ベ、カ、ラ、ズ、シ、テ、コ、ハ  
尚、初、孫、氏、が、來、滬、ノ、際、政、府、ノ、務、員、陳、情、ヲ、シ、ヒ、シ、  
諸、種、ノ、訪、察、ノ、外、特、ニ、收、入、ヲ、少、ク、シ、支、出、ヲ、多、ク、セ、ル  
本、年、之、結、算、ヲ、作、成、シ、亦、呈、報、四、百、廿、五、万、兩、ト、計、上、シ、  
之、ニ、對、シ、補、助、ヲ、乞、ヘ、ル、徵、レ、テ、モ、明、ナ、ル、ベ、ク、而、シ、テ、孫、氏、ハ、

以期待、討シテ何者カスルキ必要ヲ感じ又趙氏自身ハ  
 着シ信託經理トシテ入社赴任シ事業經營ニ當ルニ  
 能ハサルハ加論感望ヲ失墜シ信託ハ其職ヲ考ラザルベカラ  
 ザルニ至ルベキヲ以テ種々資金ノ調達ニ苦心セル債票公  
 債募集ニ志列セルモノナルベシ而シテ本場款案ハ尙尙  
 ヨリ企圖セラレシモノナルベシハ日サレハ  
 顧問ノ報告ノ如クシテ孫氏が趙氏ヲ伴ヒ和ニ回目ニ  
 来滬シ急務廠務ニ向ケ出費セントスル時池田顧問  
 ニ対シ一九二二、二日借款契約第十條及會計顧問  
 規程第八條ノ意義ヲ尋テシラ見レバ之ニヨリテモ尙尙  
 ヨリ公債發行ノ考ラシテ推シ得ベク而シテ實際特ニ  
 第十條中ノ公司ノ債務ヲ管理スル事トアル債務ハ

如何ナルモノヲ含ムヤル力及有る力取ラモ含ムヤク譯スルハ  
 着シ包含セズトモ其ノ所謂債務トハ追々ノモノ、シテ指シ  
 徒テ通商銀行トモスルノ如ク公債ヲ發行スルトシテモ銀行  
 トシテ如何トモスルノ如キモトナルベク一應子トシテ上都合  
 ニヨリテハ初年ノ如キ債トモナリ、蓋カントノ趣意ニ非  
 リレヤトモ思ハル而シテ池田顧問ヨリハ右債務ニ付テハ物ニ  
 何者制約的文句多キヲ以テ加論一切ノ債務ヲ指スモノ  
 ナリト返答シテ又池田顧問ニ於テハ尙尙時々債務ハ  
 計畫ニヤノ語ヲ聞クありたりシテ以テ能トシテ公司ノ公債ハ  
 都合ヨク發行探ナレバ公司トシテハ又信用セラル、況ニテ  
 大連官シキニ於テハト突進的ニ操ラ合セ置カレリ孫氏  
 ハ計画ノ浅薄ナド思ヒシヤ公司役員ハ此条文ヲ解釈  
 スル能ハサルヲ以テ此爲子スルモノナリト云々暫クシテ其室ニ入り来



ワタル代理店が積倉より以て承取の銀りが公司ラシテ債ヲ  
發行セシムル積倉トナリたり。斯ルルヲ迅速スルハ  
後日正金銀りの債務の強制権に支障ある場合ノ  
参考ナルベキカト思ヒタルニ由テ、

要スルニ之ヲ東京政府計多司トシテ場歴及及多司ノ  
現況に照シ且王代代理及金會計所若代理ノ言に徴スル  
ニ目前必要の経費充足に存セントスルハ本借款の主要  
目的トスベキ事十五日付書信ノ通りト思ハル。

以上ニ主トシテ公司側より見タル中借款干係ナルが更之  
ヲ通書公司より見ル所あり。但シニ通書公司の孫多森ヲ  
總裁トシ施肇治ヲ臨時副總裁トシ株主の承認先定  
揚士崎、梁士浩等、有力者ヲ網羅シ株金五百萬元  
ノ四百五十萬元ハ既に拂込ラレ残存三百五十萬元

ヲ財政部より貸下賄通ラズベシトシテナリシが事實如何ニヤ  
此辺控明ナラザルモ要スルニ政府前モノシテ政府の實業  
奨励ノ意味ヲ以テ二分、低利貸金ヲ与フルトナリナルガ  
之ハ通書公司、利息ニシテ尙多司、利息ニアラズ本件ニ  
付或ハ尙多司、二分、利息ヲ貸与シ債務二分支出ハ済ム  
フトナルヤノ説アルモた干係何者ノ証拠とキキノミナラズ  
従来ノ干係より見ルモ通書公司提出ノ合同及付保ニ徴  
スルモ斯アルハ到底あり得ベキト考フル能ハズ而シテ本借  
款成ルニ於テハ同公司株主干係者若ハ夫シ利息ヲ為ベキ  
ヲ以テ成立ヲ希望センモ大伴ニ於テ本借款ハ尙多司  
が経費充足ヲ充ス資本金ヲ抽出ガ爲ニ起リタルモノトスベク  
其方法ニシテ備ゼラレ。此等ハ別紙本借款ノ標ルノ要  
ナキモノト思ハル。



三 王子庶民者等事の概況

王子庶民の孫宝珠會者就任後辦事(事務)董事ト  
ナリタルモノニシテ資金調達ニ干シテ公司ヲ代表シテ庶民  
ニ復舊案ノ如キモ最初ヨリ同オモトシテ馬ニ南ウレリ  
シテ又テ勿論不賛成ノ旨多ク十月十六日同僚ノ董事  
會ニ花テモ頻リ賛意ヲ述ベ他ノ董事等が夫程  
賛成ナク何故孫會者及董事ヲ代表セル者取テ  
北京ニ直ニ調布セリシヤト及同セルニ討シ實ニ草案  
ハ既ニ兩人トモ調布セリヤト出マセニ放言シサハ草案  
ハ如何ノモノナリヤト同ニ窮シテ辯ト多ク免ニ申調布ノ  
上日本例ヨリ抗議出テンニ破棄セバ宜シキハ作ス  
ヤ任智國能カ目らノ窮況ヲ如何ニモントスルヤト各員  
任ノ語ヲ弄シタルモ多數ノ董事既ニ見玉ふ金

上海支那人會者ニ急質向書ヲ送付シ来レルヲ以テ  
董事盛氏一任スベシトテ何言決スル所多ク散會セル  
ガ王子庶民に従来會者可長代理ナドヨリ資金  
ノ取捨ヲ受ケルモ何事第モ多ク金氏ハ亦王氏ノ親  
サハ兄ハ金ト云ハル故に避ケテ出勤セザルアリ  
故ニ本任ニ付テモ王ガ免ニ角調布シテ何程ニテモ資  
金ヲ取レバ言キニ非ズヤナド云ヒ居リシ由テ司カ中借款  
ニ期待スル案ニ種々んベキモ王トシテ怪費ノ多ク補フ  
アルヲ王子庶民等ニヨリテモ案スベク又先日十五万兩正  
金銀リヨリ貸付承諾ノ通書ヲ得タルを董事等會者  
會議モ大分緩和カレタルト云フニんテモ知ラザルベシ、

三 盛氏ノ本案ニ對スル概況  
公司任智文并ノ道ニ窮シタル場合止ラザルハ公司

盛氏干係ノ商社若クハ盛氏自身ノ資金ヲ通商銀行  
ナドヲ経テ借入シ一時ノ渡グー今控往キアリ盛氏ハ非  
常ニ之ヲ喜バズ余亦亦代理金氏ナゾモ其様嫌ヲ蒙  
フヲ嫌シ餘程ノ場合ノ分盛氏ノトニ駈付ケサルモ盛氏ハ  
少司財政ノ窮迫セル事概ハ能ク了解シ居リ中件  
ニツイテハ條件ニ不賛成ニシテ且日本ト干係ヲ欲  
慮シ實際成立ニ于レマカ者確タル快意多キモノト  
推シタルト拘ラズ態ト賛否ヲ明ニ決定セズ其真意ハ  
本問題ヲ種トシテ日本ヨリ資金金ヲ引ント期待スルモノ  
ト解スベシ而シテ盛氏ノ意圖ハ何ノミルモノトスベシ、  
本業成否ハ一盛氏ノ意思ハ何ノミルモノトスベシ、  
四 附件ノ批評、  
借契契約本文ニ于テ大抵説明及批評ハ前報告

ノ通りナリ附件ハ必至又取人ヨリ照会ニ付シ如メテ推  
出セルモノナリガ之ノ対テ少シク批評ヲ記セル、  
第一條及第四條ハ明治四十五年二月十日李維格及山田切  
両氏ノ旨ニ面テハサレドモ特別契約所定ノ精神ニ及シ  
且本年五月締結ノ日支條約ヲ蹂躪スルモノニシテ万一  
此契約附件締結セラルハ日本ハ支條ノ機關ヲ通ジ  
テ嚴重ナル抗議ヲ為スル要アルベク又務メ其口を閉ジ  
テ發スベキ性質ノモノナリト思ヘス、  
第五條ノ各種優先支取權ハ既述權ヲ侵害セサル限リ  
何事ナラドモ能ハサルベク第六條債務之履行ノ場合管  
理權回收ニ于レテハ亦一抵当權ノ何事ノ物附障ノ事  
ヲ来サレルベキヲ特ニ通惠多ク、向テ聲明承認セ  
ルン要アリト信ス、

天

五、經費不足 存貯金方格  
 本借款の成否は別トシテ目下ノ經費不足に付テハ是尚り  
 本年末迄ハ陰曆年末迄ノ方格ヲ講ジタリ格別ハ  
 現存レールノ内担保に提供シ得キモノ約一萬三千噸及  
 其付属品約七十五兩(凡ソ之丈が昨年未シク以テ融通ヲ  
 乞フノ如キカルベク先般三千兩物産ヲ通ジテ更ニ所リシ  
 南京政府存借款ノ拂戻金七十八萬餘圓ノ内三千兩物産  
 ヲリ返戻ヲ交ルルニ於テハ其高又輕價付ヲ認ム所ナリ  
 借入ノ案出來ニテ亦中出サレムベシ格別年終以降ノ金ハ  
 自ら各廠鑛面ト事業及會計收支豫算作成送  
 付方申送り所ルニ付是ハ予司金作ノ豫算作成  
 報ヲ中出フルトシタシ。

大正四年十月廿日

横濱正金銀行

上海支店

總務部

法中

○漢沽洋行司對通惠公司借款條件

本件、圖別紙字、通、再、電報致、且、先、便、附、帶、條件、郵、送、任、事、同、法、承、取、被、成、之、事、下、  
在、存、也

昨日王閣臣、盛宣懷、使者、上、言、奉、勅、曰、公、司、對、日、本、之、債、務、之、契、約、基、于、支、那、人、之、借、款、之、上、之、差、支、之、上、之、本、合、同、中、第、五、款、第、六、款、之、別、紙、封、入、通、之、様、之、要、更、方、之、北、京、之、文、

涉、致、度、之、備、方、之、意、見、承、知、改、夜、且、遲、之、事、中、之、北、京、之、回、答、之、要、之、候、答、之、其、上、之、通、之、何、分、ノ、意、見、弁、表、了、度、之、且、貴、意、見、之、直、接、北、京、之、知、レ、ル、様、之、願、之、申、出、有、之、候、尚、附、帶、條、件、之、付、之、何、等、之、申、出、無、之、之、盛、之、意、思、之、質、問、致、  
處、同、人、之、意、見、之、大、要、左、通、之、有、之、様、被、存、也

第四條、株券賣買之制限、全、然、削、除、  
第五條、賣買アリケル片、其、事、下、資、之、公、司、之、通、  
惠、之、司、之、報、告、不、

第五條、工事受負其他、同、之、上、之、已、之、倫敦、  
之、買、之、代、表、人、之、日、本、行、之、東、亞、運、輸、會、社、

約定ハ此條削除ヲ要ス但シ一般買入之事  
等ニ世間並ニ通惠ノ司トモ勿論取引ヲナスモ何  
等優先權又ニ區別ヲ其ヘサル一右ニ條ヲ  
除キ盛ニ他ノ條項ニ異議ナキ一

以上ニ述ビタル慶ニ御座ル而シテ最初ヨリ公司ニ支  
那人ヨリ借款ニ得ルヲ前提トシ其根本問題ニ  
立入ル一ヲ避ケ居ルニ借款其者ノ可否ニ付テハ  
何等當方ノ意見ヲホノス只條件ニ付本邦側  
ノ意見ヲホントスルノ手段ヲ務メ居ル事トシ盛  
盛ニ總經理ノ任存權ヲ通惠公司ニ委スル一ヲ辞  
セサルノミナラス其他ノ重ナル條項ニ對シテモ異議ナキ

ヲ以テ盛ニ自己ノ勢カヲ失フ一ヲ意ニ介セサルノミナ  
寧ロ此等ノ條件ヲ歡迎スルヤニ想像出來ヤ一  
而シテ彼ノ真意ニ單ニ自己ノ株式ヲ保護スルニ  
ト被存ノ畢竟彼ノ形式ノ變リタル公司固有ノ業ニ  
賛成レ自己ノ利益丈ケテ充分ニ保護スルノ方法ヲ日  
本側ヨリ補助ヲ得テ講セトスル外ニ何等ノ意  
無クモト被存ヨリ隨テ此兵ニ因テ昨日日電被  
中ニ述ボ高木氏意見ト多少ノ相違有  
事トシ盛ニ書クヨリ今後便詳細ニ被存  
中ノ答ニお答存ルニ自法年照被成ニ成  
本借款問題ノ経路ヲ大野助手ヨリ聴取



此事の基礎として大畧大なり云  
此問題、此者より起リ居、クルモノ、如く六月下旬  
池田前顧問より通憲子司ト借款請ルモノナ  
法務省致セルガ甚也當時王子居ト盛宣懷ノ詔  
頭ニ上リクルモノナ其詔、王子居ノ秘書ヨリ大野助  
手ニ渡シテ兼知セルモノ、此借款ノ動機、以司  
側(盛ノ意思ニ別トシテ)ヨリ見ルモノ、懸ツテ公  
司毎月ノ所要経費ヲ得ントスル苦心ノ結果ト見  
ルモノ、得ヘク毎月約十七八萬、経費ニ是非  
共調達セサルヘカラサルニ、後東洋銀行セルモノノ賣  
却不可得トナルニ、原因スルモノ、如く是存ルモノ、  
レールノ賣却可能トスルハ、以司ノ経費、出所ヲ得ヘキ  
モ其途塞リタル爲ノ直ニ苦境ニ立テ金令計課  
長代理ノ如キ、王子居ノ親ヲ見ルヤ直ニ金策  
ヲ依頼スルト云フ實際ナレハ王子居ノ條件、如何  
ニ俾ラス何ントカ都合ヲ付ケント試ミル、自然ノ救  
ナルヘシ然ルニ最初借款問題起リタル當時、海  
蘭銀行通、賣却セルモノ、代金ノ入金アリシヲ  
以テ其日、経過スルモノ、得タルヲ以テ借款請ルモノ蓋  
シ採取ラサリシモノ、然レレールノ賣却、一切世々  
経費ノ出所ニ付何等見込付カス一面中、五交通  
五銀行も政府ノ保証ナラテ、昨今海對ノ難

通ヲ拒ムル状況ニアルヲ以テ唯一ノ金策ハ正金銀力  
ヲ仰グ外ナキ際事ナルモ正金トテモ自由ニ且無  
限ニ供給スルヲ能ハサル以テ今夏豫定  
琦未償ノ節政府ノ援助ヲ仰フ請願ヲ出ス  
ニ決シタル次第ナリ夫ツ第一着トシテ湖廣鉄道  
支却セルレールヤ金銀四系毎ノ前貸ヲ請ホレ  
併シ通惠トノ問題ヲ纏メテ王子居止事  
赴キレモト被奏スル(海關鉄道ノレールヤ金  
其以前ニ已ニ要取リケルナリ)王子居止事ニ赴  
前ニ盛トノ間ニ以テ司株者ヲ通惠ニ入ル問題  
起ルニモ盛ノ對ニ及對セリトナリ有之ル

王子居止事ニ於テ前記三十四系兩ノ前貸ヲ其  
第一運當セルモ其甲斐ナク債局非常ノ奔走  
ニ漸ク湖廣鉄道<sup>保</sup>証ニ當テ交通銀<sup>保</sup>ヲ  
十二系兩中五銀<sup>保</sup>ヲ十二系兩ノ融通ヲ  
要ケル九月ヲ経過セル一ニ最早レールヤ金  
却ニ年内ニ見込ナク以テ司株者<sup>保</sup>貸手アラハ條件  
如何ニ余リニ問題トナラサル実状ニアルモト被存  
公司昨今ノ窮境ヲ政府戦争ノ有ニ支那鉄道  
ノ建設延引ノ原因ニ債局毎月入用ノ洋銀  
所要十五系大抵ノ経費多系都在十系  
兩ノ出所ナキニ至レリ以テ十八系兩ヲ約三十五

系事ト見做シ方ツ向、二十年間、経費即六百系  
事ノ出所ヲ講セントシテ今日ノ借款ヲ引起セルモ  
ノ如ク而シテ此借款ヲ償却スルノ手段トシテ自ラ引  
クヨリブレシテ新設シ且象鼻山高坂ノ開墾ヲナシ  
ントスルニアルモノ、如ク即チ事業業ヲ創メントシテ借  
款スルニ非ラスレテ事業業ノ借款ニ從タルノ觀有之  
キ即借款金額ノ倍額即老千負百系事ト  
シ其半額ヲ事業業費ニ漫然割リ当レトスル  
過キス本月十五日日大野助手カハ報告アリ  
費自ニ同助手ノ質問ニ達ヒ公司ニ應急ニ作  
制セルモノニシテ何等前以テ成案アルモノニ非ズ  
故ニ單ニ表面ヨリ見レバ此借款動機ニ毎月、  
鄭君五系事ノユ夫ヨリ起リタルモノニ外ナラズ様  
積存亦然ニ事、北京側ニ於テ大ナクテ終ニ今  
回、如キ國有案同様ノ條件、提出ヲ見ルニ至  
キト決論相出未キヤ、本ヨリ先般豫至時、日  
本ト大借款中、規定ニ以テ同債務ヲ弁  
償スル者ノ正金銀アリ、債務ヲ公司ニ發行セシメ  
得ル規定ニ關シ債務ノ意味、井田鶴岡ニ質  
問セリト、事トシハ或ニ同人ノ今回、如キ行動  
ヲ採ル計盡ナリシモノト推測ニ難カラス也却テ  
此借款ノ動機、何ニアリトスルモ今月七日日

以テ送付申上至云大野助手ノ手ニ成レル公司  
財政近況ニ有之云々 公司當面ノ問題ニ毎月  
所要ノ経費ノ云々、アルノ事ヲベカラサル、被存者  
間此兵ニ何ント<sup>手</sup>講ニヤル必要有之ハ被存者  
事、<sup>手</sup>又過日承認ヲ得ず亦月廿三  
控五系両傍共ニ聞スル當方、通知カテ度者  
事、何層當日ナリシヲ以テ此臨時借入金ノ  
一事カ今回、借款調印止引ノ一理由ニナリ  
由、如キハ如何ニ公司カ目前ノ経費ニ窮スルカ推  
察ニ難カラサル事ト存ル現ニ大野助手カ金  
庫計課長代理（日人ノ董事會ニ出席）  
夕ノ慶ニヨリハ董事會席上王子居、兎ノ角  
幾分ノ資金ヲ得ル、目前、急務ニ付兎  
ノ角調印ヲ了シテ若干ノ金銀ヲ得ルヲ得策ト  
ス若シ日庫ト契約ニ違及スハ後日取済ニテ可  
ナラスヤト疑ナリト、事、有之此ハ如何被存者  
解釈出来申カ王子居、公司ヲ金策  
ノ依頼ニ對シテ、廻ル因却致店ハ<sup>手</sup>熱ニ<sup>手</sup>  
右要ノ用如クニ<sup>手</sup>持具

(合同原案對各債權意見)

第五款 漢冶萍公司以全體股票並指明陸續新出之貨物為第一次抵押云々

查日債合同指明以動產不動產為第一次第二次抵押則是股票亦在其內所有大冶鐵鑪洋御煤礦係不動產其時用辦尚無日債皆屬股東資本所置辦非於產業之外另有股本現貨也目下股票均為全體股東所執亦有抵押者故行亦有將來如不幸而破產照合同產業已充昨日債抵押豈能提出一千數百萬股本所置之產業先歸通惠是以通惠只能作為第二次第三次抵押斷不能提出股票為第一次抵押

新出貨物所售之價已列預算表內俟數歸還日債亦不得作為第一次抵押所有以後漢冶萍公司動用通惠公司之借款置辦各產業所出之貨物均可作通惠第一次抵押

第六款 第一節 本合同以外漢冶萍公司如欲借款項須先向通惠公司商議倘不得已有向他處借款之必要時商允通

惠公司後方得向他處提出債務條件  
第六款 第二節 本合同以內借款除第二  
款漢法洋公司營業進行有碍惠公  
司得展交自限期外通惠公司倘欲傳付  
則此合同作廢其已付之款另訂歸還辦  
法

(合同原案：對ル盛宣懷意見翻譯)

第五款 漢冶萍公司之全株、株者並ニ新ニ生

産スル貨物ヲ指定シテ第一位担保トス云々

按スルニ日債合同ニ動産、不動産ヲ以テ第一

位 第二位ノ担保トナス「明定」サレハ株金

ナルモノモ亦右ノ担保品ニ含マル「トナル」 大次

鑛産、萍御炭礦、不動産ニテ同辦、尚

時ニ日存借款無カリモヤハリ株主ノ買付金

ヲ以テ購入セシモノナレハ同シク財産中「含マル」

キ性質ノモノニテ別ニ現金株金ナルモノ、存ス

ノ理ナシ 今株者、株主全体ノ所有ニ属スト

スルモノニ對シテ同シク担保権ヲ有ス 即將表不

幸ニシテ破産スルトモハ 梨行「合同」準據ニテ

公司財産ヲ以テ第一「日本側債権」ノ担

保ニ充當スヘク、尙千數百萬元ノ資金ヲ以テ

購入セル財産ヲ統ニ先ツ通惠公司ニ委スルノ

理ナシ故ニ通惠公司ニ僅ニ第一 第二 第三位ノ

担保権ヲ設定スルヲ得ルモ 株者ヲ以テ第一位

ノ担保トナスコト斷シテ有リ得ヘカサルナリ

又新ニ生産セラルヘキ貨物賣上代金「既ニ

豫美表中ニ列記シ 全部日債償還ニ

充ツル「トナリ」居ルヲ以テ之亦第一位担保ト

ナスルヲ得ス此令後漢法洋子司カ通惠子司ノ借款ノ運用之ニヨリテ得タル貨物之ヲ通惠第一位担保トナスラ得ヘシ

第六款 第一節 本令同以外ニ漢法洋子司

子司ノ金貨ノ償借ヲナサントスルトキハ必ず先ツ通惠子司ニ之ヲ相談スヘシ若シ已ムラ得サル事情アリテ通惠以外ノモリヨリ借款スルノ必要アルトキハ豫メ通惠子司ノ承認ヲ得タル後其者ニ對シ借入条件ヲ提出スヘキトス

第六款 第二節 本令同期限内ニ第六款所定ノ漢法洋子司カ營業進行上不利

益ト認メタル場合ニ通惠子司カ金錢ノ交付ヲ延長スラ得ル場合以外ニ通惠子司カ若シ引渡ヲ停止セルトスルトキハ本令同ニ無効トシ既ニ引渡漏ノ金貨ニ對シ別ニ償還方法ヲ協定スルモノトス



秘受9820

大正四年拾月廿八日接受

管政務

大正四年十月廿七日

橫濱正金銀行

總支配人心澤代理 武内金平

印

外務大臣男爵石井菊次郎殿

拜啟漢治洋公司對通惠公司借款ノ件ニ関シ  
甚宜懐申出本邦側態度ニ付キ希望並ニ  
孫宝琦電信ノ件別紙寫ノ通り上海支店  
ヨリ電報有之貴州ニ為訴信取内覽順

敬具

上海支店來電寫

十月二十七日

盛宣懷使者トシテ高木陸郎北京孫寶琦ヨリ電信持參シテ曰ク、本邦側態度ト小田切萬壽之助意見ト相違アルハ自分苦境ニ立ツラ以テ兩者態度同一ニセラレ度且本件ニ関スル本邦側意見ハ一ヶ所ニ於テ發表相成度云々孫寶琦電信左ノ通リ

小田切萬壽之助前向孫多森詳詢借款合同徑與解釋伊已無辭昨對趙椿年言開誠存公無不和商已函致滬行研究與該行借款合同如不抵觸當無異議此事日本方面並無惡意請囑王閣臣詢明早日解決盼復琦有印

孫寶琦電信大意

小田切萬壽之助前日孫多森ニ對シ借款契  
約ヲ詳詢シ共ニ解釈シタルニ何ノ言モナカリキ  
昨日ハ趙椿年ニ對スル語誠意ヲ開キ公道ヲ  
布キ和高セサルナク已ニ上海ニ郵報<sup>研</sup>究若シ該  
行ノ借款契約ニ抵触スル所ナケレハ異議ナカ  
ルヘシ此事日本方面ニモ決シテ惡感アルベキ  
答ナシ請フ王閣臣ニ命シ詢明速ニ解決ス  
電セヨ

秘

大正四年十月十八日

十月廿五日

山

高市陸軍

池政局局長殿

閣下

高市陸軍、中上正陸軍、  
北陸方面、中野正陸軍

貸 料 借

十五日無事！着迄仕候

通忠公司借款一件

東洋銀行  
本借款ノ為ニ有之候  
向ノ左候  
ヲ催ホス

或宣懐、急電ヲ以テ小生ヲ救救ヒシハ  
当初去ル五月、孫資新ニ會共就任、  
際袁大總統ノ内意ヲ受テ、爾後北京政

府ニ公司ニ保護ヲ加フル一ニ努ム可シ  
ト將スルリ当時公司ニ財政例ニヨリ窮  
乏ノ際ナリシヲ、孫ノ手ヲ經テ政府ニ  
對シ経賞補給トシ、毎月貳拾萬兩宛向  
テ、三ヶ年貸與ヲ請願セル一、其当時此  
ニ御報申上ゲ御承知ノ通リ、有之候  
處袁大總統ハ此貸與ヲ政府ヨリスルリシ  
過般成立セル通忠公司ヲシラナリシムルノ  
可トシ、其意ヲ公司ニ通シ、公司ハ又資  
金リヘ借リ得ラハ、モノナラバ強テ政府

支那ノ資金トシテ通惠公司ニ  
借入ルル日本ノ條件一遺言ナル  
レドモ向敷ト承諾ノ意ヲ表レ乃チ  
其條件一高議ノ為メ止副會長ノ次ニ  
位ナル首務董百ノ上子臣ノ北京ニ派  
シ向請ヒタルトナリシニ倏然多當初感  
等ノ意ハ右ハ通惠公司ト云フニ其定政  
府ノ資金ニ多殊一日支交渉ノ結果真  
實政府ガ公司ノ保護維持ナル方針ニ  
出タル為メナレバ條件等ハ形式ニ過ギ

日ル可ト考ヒ居リタル處其後形勢ハ漸  
次変化シ遂ニ公司經營者ノ主張ノ  
全然変史ニ日株主ニ代ルニ通惠公司  
其者ガ術ニナリトシテ即チ感ノ實権  
ヲ全ク剽奪ス家奴ヲ形勢頷ハレ未レ  
シリ寧ハ日本側ト商策提携シ之ヲ防  
遏セシト乃チ小生ノ忠告ヲ以テ故ハ  
ルニ到リタルモノニ候  
通惠公司ノ年貢百萬元借款本契約ハ  
去ル十五日大野會計顧問助手ニ報

貴社ラレシル迎テ、有之候、此別ニ覺  
ト多附帯条件入リ、条アリ、昨日止全銀行  
ニ海支店アリ、中打罷中、上候通、ソリ公司  
經營ノ定權ヲ全然日株主ヨリ奪フ  
ヲ規定致シ、任ル、ミナラス本契約發表ノ  
曉ハ、公司株券ハ、米文ノ價値無キモノトナル  
恐レ、ソリ、或ハ之ガ満印ヲ拒ミ、且  
會計顧問職務章程ニモ明カニ規定シ、  
ル、トテ、一應會計顧問ト協議スル必要  
アリト申スニ候、其本借款契約ノ商議

ニ歸港セル利子、原ハ本契約正文及覺  
書附帯条件全文ハ、袁大總統ガ既ニ批  
准セシモノ、且、附帯条件ハ、内部関係ノ  
ニ絶体ニ日本側ニ示ス必要ナシ、契約  
正文トテ、モ、其日本側ト、約束ニ影  
響スルモノ、非レバ、差支ナシ、且、會計顧問  
ニ不在、ニ、契約正文ハ、大野助手ニ交  
付シ置キ、タバ異議ナル、決テ、他日異議  
生ズ、六通惠公司ト日本ト交渉スル、ハ  
是レ、時ト、遠ニ、無ニ、満印ヲ、却、リ、且、ソ

替支松ノ期ニ迫リ辰六十五日中ニ必  
不調印を呈シ度ニト言ヒ張リ他ノ輩等  
連中ハ本契約書ノ王子辰ガ携ヒ持  
帰リクモ一表大誤誤直筆ノ誤ナル  
准ノ明文アリヨリ道カキ約束一皇帝タルハ  
キ袁氏ノ親筆アル契約文ハ上諭ト同  
ジキレト思惟ニ無理ト知リツ、之ヲ駁論  
スルモノナケル王子辰ガ恰カニ通患公司  
ノ代表ノ如ク思慮一欠ラ辰ルニ誰レ一人  
怪シムモノナキ状態ニ有之北京ニ在ル孫

實琦ナド無論ニ契約ニ異議ノロク置ナク  
新總理ノ猶舊年ハ本契約ヲ訂結ニ  
成ノ實権ヲ有ハントシテ發頭人ノ一人ニ有  
之事實上成ハ京劇ノ様ニ在リ且ニ成ハ  
之ニ調印キカ度ニ實権ガ已ヨリ離ル  
ニナラズ本契約ニ度ニ發表セラルルハ公司  
株券ノ人下落ハ明カナル故ニ本契約ノ調  
印者ト多ク株主憤怒ノ噴点トナル羽目ニ  
在リ故ニ株主總會ヲ開キ其次議ヲ待  
クニトシヨリ公司株券ハ政村篤成一

激ノ持株ヲ合スルハ過半數以上トナリ或  
ニ多ク反對ニ非ル限リ株主總會ヲ召集  
シ之ヲ議スルモ多數數決トナルハ明カナク之レヲ  
召集スル必要ナシト云ヒ或ハ反對ヲ公言  
セバ現政府ニ抗スル事ト多ク睨マレヨク及  
對シ公言スル能ハズ唯第一債権者タル日本  
ニ倚リ本契約条件ノ緩和ヲ謀ル外策  
無キニ候十五日ノ調印ハ当日業ニ正金  
銀行ヨリ十五萬圓ヲ交付ナルコトノ承諾  
ニ來リ月末迄ハ為替支払ノ必要ナキヨリ

自然調印モ月末迄ハ近バムコトヲ得ルニ至  
リタルニ候一ハ王子展等ハ本借款成立セ  
ザレバ公司ハ今後毎月経費支払ノ途ナシ  
何ヲ顧慮スル調印ヲ躊躇スルコトト云フ  
云ヒ出テ候ヨリ或ハ其如ク条件ヲコソク  
研究スルコトナク調印セトスルコトヲバ自  
ニ調印ヲ迫マル迄モナク正會長タル孫及  
首席董事タル王子展ニテ調印多ク可ナ  
ク多ト及駁多物分レトナリタル次第ニ候  
然カキテ或ハ前記ノ如キ固固ノ事候ナ



ルニ附帯条件ハ絶件秘密トナシテ強要  
ガレシテ日本側ニ示スル能ハサルヲ以テ  
正メテノ掌者ノ正金銀行支店長兒  
玉氏ニ依頼セシメ正金銀行ヨリ公然公司  
ニ對シテ通惠公司ト交渉中ナル總テノ条  
件ヲ示ス可キヲ貸付金ニ變動的ニ  
付帯条件ノ日本側ニ示スルニ致シタルヲ  
ニ候

本借款ノ公司ニ取リ有利ナルハ大抵ニ於  
テハ多年ノ懸案ナリ。象鼻山銅山が公司ノ

所有ニ歸シ之ヲ採掘ニ得ルノミナラズ採  
掘ニ於テニ係争中ノ副産物採取が公司  
ノ所有ト決シ採掘ヲ開始ニ得ラハハ  
ナリ前者ノ開採費三十拾萬元後者ノ開  
採費二百五十萬元ハ本借款中ニ支出  
セラルルニ候外ニ副産物採取コトクハ  
建造費三百五十萬元ニ本借款ニヨリ支出  
スル事得残リ五百七拾萬元ハ餘費ニ充  
テセラルルニ候  
尚本利息ノ八歩手取九五ト云フハ表面

萬年ノ如キ本契約ニ調印スル政府ハ近  
 カク廣業保護條例ノ如キモノヲ新ニ發布  
 シ公司ニ六歳ノ補給利率ヲ與フル故結  
 句公司ノ支出ハ利息ハ年ニ歩ト手取  
 九カト云フ大ニ低利ノ借款ト相成ルモノ  
 トノ事ニ御座候

又附帶條件第一條ヨリ總經理ノ權限  
 ヲ確實ト相成ル義ニ付キ本借款成立  
 時ハ趙椿年ハ直ニ總公司ヲ漢口ニ移  
 不設ニテ本契約成立セザレバ趙氏ハ總

經理ヲ辭スルモノト相成ル可ク候

然ル本借款ノ資金ガ果シテ支那側  
 ノ言ノ如ク支那國自身ノ資金ニ非ズ  
 英米等ヨリ私カニ轉借スルモノニ非  
 ズト云フ懸念モ有之候一其此莫ハ先方ニテモ  
 之存積ノ事アリテ日本側ヨリ必ズ直ニ  
 抗議出ス可トヨク承認致シ庶リ全部  
 中國交通兩銀行ニテ民間ヨリ資金集  
 和足金ハ兩銀行ニテ補足スルモノト  
 之存積ノ事アリテ日本側ヨリ必ズ直ニ

①

千九百二六號の店ヲサレ株ニ候  
又重要ナラザル附帯条件第五條ノ如キハ  
公司ガ既ニ他ト契約致シ店ルモノト抵觸  
スルコトヲ通惠公司ニテ容易ニ変更ス  
ルコトヲ承諾致シ候  
然レ多ク借款ハ上述ノ如ク公司ニ取リテ  
ハ種々利益ニ有ク候事ナリ且ハ威  
光境多病ノコトヲ其實權ノ通惠公司  
及趙氏ニ移ワシハ別改異議無ク候  
多致所持ノ株券ガ全然無價値ノモノト

ナルコトナレハ何トカ多ク防護セト之ヲ對  
スル日本側ノ援助ヲ望ミ店ル次策ナリ是  
レハ第一ニ威ノコトヲ思フクハ株主全  
額榮ト存シ候  
在株ノ状況ニテ北京方面ノ壓迫急ト相  
成リ候ヨリ威ハ寧ロ日本ニ年威等日  
株主ヲ防護ナシ吳ルコトナレバ此際日本ガ  
縁ヲノ希望ニル公司ノ日文合併ヲ速成  
セシム可キ運動ヲ開始ス可キ意ヲ懷テ  
來リ参リ其手段方法ト多クハ過般ノ日

支條約ニ於テ支那政府ハ公司株主ナ  
異議ナシテ日支合辦善友ナキ事ナリ言  
明ニ度ルヲ以テ一方公司ニ於テハ臨時株  
主總會ヲ開キ公司ハ公司株券金都約  
千九百萬元ヲ洋銀千二百萬元ヲ政府  
ニ買上テ請願ス可ク他方日本側ハ支  
那政府ニ向テ過般ノ言明ニ照レ右資  
金ヲ貸與ス可クレバ公司ノ全株ヲ買上  
ゲ之レヲ通惠公司ニ交付シ以テ速カニ  
公司ヲ日支合辦トナサレテ要求セバ

前ノ言實モ多ク支那政府ハ之ヲ敢テ  
大ニ外患カレ可キカト存候殊ニ昨今袁  
大總統皇帝ヲラシムル際ナレバ日本ニ  
相当好意ヲ表セトスル折ナリ業外容易  
ニ解決ニ得テラント存候 向テ千五百  
萬元ノ株ノ内約三百萬元ハ政府ノ持  
株故支出ノ必要モナカレバ實際民間  
ノ株ハ千二百萬元ト其八割トシテ  
洋九百六十萬元ト相成リ候故日本貸  
約金八百万圓ノ現金ヲ此際支出スル

事ニ係リ多年ノ懸案タル本公司合辦  
問題ニ解決シ得ル次第ニ候ガ之ニ對  
スル御高見如何ナリ至急御示教被成  
下度願上候御末示ヲ待テ方由ノ運  
動開始致シ度御如才ニ急ニ候一共カ  
事トシテモ北京側ニ渡ル候テハ如何  
ナル壓迫ノ来ルヤニ計リ難ク候間此  
吳々ニ御留意願上候  
先ハ右成行御報ノ幸旁得莫意中  
度此ニ御座候

敬具

受22590類

大正四年十月二十日

在漢口

總領事瀨川淺之進

外務大臣男爵石井菊次郎殿

漢陽鐵政廠、進歩ニ関スル

新聞記事譯報、件

本件ニ関シ當地發行十月二十日、英字新聞  
セントラルチャイナポスト紙上ニ掲載スルトコ  
有之候ニ付御参考迄別紙譯文差進候  
也

在漢口日本領事館

後水野信公

封

漢陽鐵政之進步

本年度於漢治洋ノ事業ハ總じて  
故障ナク誠ニ順調ニ進ビ唯僅カニ河南省  
醴禮ニ於テ俄カク洪水ノ為ニ鐵橋ノ破壊セラレ  
タルノミニ過キガカリシ而シテ生鐵十三万五千噸及  
各種棒狀銅鐵九万八千五百三十六噸ヲ産シ  
尚ホ外ニ鐵栓大釘鉸釘其他合ハセテ九百噸  
及耐火磚千二百噸ヲ製出セリ  
萍鄉炭坑ニ於テハ石炭五十万噸ヲ採掘シテ其内  
十六万五千噸ヲコークストナセリ  
大冶鑛山ニ於テハ鐵鑛四十八万噸ヲ産出シタル  
ノミナラズ本年度間ニ於テ事業ヲ擴張シタル  
コト斷カナラズ

在漢口日本領事館

漢陽ニ於テハ新ニ鑛鋼爐ヲ建設シ尚ホ製鋼  
部鐵軌除製造部及耐火磚製造部等ヲ  
擴大セラレタリ

大冶ニ於テハ新ニ鐵鑛山ヲ買入レタルガ迅速ニ發  
達セラル、モ、如ク次年度ニ於テハ鐵鑛ノ七十万噸  
ヲ採掘セラル、ナルベシト云フ

萍鄉ニ於テハ新ニ堅坑ノ開カレシムルハ今後ハ産出  
増加シテ斷カトモ毎年六十四万噸ノ石炭ヲ採掘  
スルナルベシ而テ千九百十四年度ニ於テ歐洲戰爭  
ノ起ラガリシニ於テハ其産出ハ蓋シ未曾有ノ記  
録ヲ残シタルナラント思ハル、ナリ  
支那革命動亂以來外國人技師其數ヲ減シ  
初メ十五人ナリシトコロ今ハ二人トナレリ此ニ及シ支

3. 0. 1. 3

那技師ハ嘗テ人ナリシモ今ハ十五人ニ増加セリ  
其他役員、總教二百五十人及勞役者三千人  
アリ

在漢口...



大山

報

其

第一 報 表

政府 示

立上海

石井大臣

有吉 總領事

第一三〇号

三月六日 四時 三十分 發行

及井上  
通商  
事務

左ノ通北京、轉電アテ

通惠公司對漢冶萍公司借款向

款ニ関レ我方反對、趣旨正金銀

外務省

行方上海支店ニ電報、  
小田切方以受取、  
取給後、  
小田切方以受取、  
下、  
思考スル処今

取我方關係者例ニ於テ協議ノ信

果一方通惠公司借款ヲ打壞スル

同時ニ一方氏極ニ於テ漢冶萍公司  
支合辦ヲ速ニ進スルコトニ決定スルニ付

追テ本件ニ付テハ貴方ヲレテ支那政

府ニ對シテ何分ノ義中入レシムル

記

有之のしと思料せり、

ル一キの明豫メ内令呈アリ交  
尚  
祿  
子  
孫

ハ小田切に就キリ承知アリカレ

取  
録  
後

外務省

0365

REEL No. 1-1466

附  
大正四年拾月廿九日

大正四年拾月廿九日

大正四年十月廿九日

管政務局

第二課

横濱正金銀行

武内金平

信友十吉

外務大臣 野村吉三郎 殿

江尚遠  
三國太郎  
外一

拜啟 左記事項之調査に少田切替外所歸後  
其報告有之其調査之結果内覽其結果  
一通 惠実業省 對漢信 存 借款 三書 各件

頭第少二百五十三號

大正四年十月二十二日

於北京支店

本店

取締役 小田切萬壽之助

頭取 井上準之助殿

通惠實業公司對漢冶萍公司

借款ニ関スル件

本件ニ関シ向者楊士琦ト会谈ノ次第ハ頭第二  
四十九號公信ヲ以テ及御報告置候處其後上海  
支店ノ来電及来信ニ接到シ通惠ノ要求條件  
等略明瞭ト相成矣ニ付通惠臨時總裁孫多

森ト会见シテ其真相ヲ探詢スルノ必要ヲ感シ昨  
日同人ヲ訪問シ二時間ニ亘リ意見ヲ交換致候  
左ニ其要領ヲ列記シテ後參考ニ供シ候  
右会见ノ要領本致ハ孫ニ對シ日本ノ訪問ノ用向  
ハ專ラ通惠對漢冶萍借款問題ニ関スルモノ  
ナルカ之ニ関シテハ何等本店ヨリ交渉ヲ開始ス  
レトノ訓令ヲ受派リタルニアラス單ニ上海支店ヨリシテ右ノ  
次第ヲ打電シ来リタルカ為メ彼我ノ誤解ヲ避  
ケントスル見地ヨリシテ事ノ真相ヲ聞取  
ラントスルノ意ニ外ナラサル旨ヲ告  
ケタル上右借款起由因主旨ヲ尋  
ネタル所同人ハ

漢冶萍公司ノ營業不振ニシテ且資金欠乏セルカ  
為メ公司ハ政府及通惠ニ對シテ其救済方ヲ請  
求シ来リ通惠ニ於テモ亦不得已茲ニ出テタルモノニシ  
テ一言以テ之ヲ救ヘハ公司ノ維持策ニ外ナラス去レハ  
資金ヲ通融スルノミテ内部ノ改革ヲサレハ折角  
注入セシ資金モ水泡ト化スルノ虞アルヨリ趙椿  
年ヲ總經理人トシ之ニ全權ヲ附與スルヲ條  
件トシテ右資金ヲ貸與セントスル計劃ナリ  
ト答ヘ次ニ右資金ハ政府ヨリ貸與ヲ受ケ若クハ外  
國側ヨリ間接ニ借入レ更ニ之ヲ公司ニ轉貸セントスルニ  
アラスヤト質問セシ處同人ハ

否右通惠ノ資金及通惠カ中國銀行交通銀  
行等ヨリ通融ヲ受クル所ヲ以テ之ニ振向ケントスル  
モノニシテ直接間接ニ外國ノ資金ヲ包含スルモノニ  
アラス又之ヲ借用シテ轉貸セントスルノ意思ナシ  
ト答ヘ但政府ヨリ貸與ヲ受クルニアラサルカノ質問ニ  
對シテ何等明言スル所無シ之矣  
次ニ本役ハ右借款ノ担保トシテ公司全体ノ株券並ニ  
高坑象鼻山產出物ヲ提供スルヲ要求セシ由ナル  
カ其實否如何ト尋ネタルニ孫ハ  
總株券ヲ担保トシテ提供セシムルハ實際不可能  
的ナルク又高坑象鼻山ノ產出物料ヲ以テ同一目

的提供セラルトモ亦通惠ニ於テ強硬ニ主張セント  
欲スルモノニアラス

ト意外ノ回答ヲ與ヘタルニ付本役ハ折返シ公司ニ於テ巨  
額ノ資金ヲ供給セントスルニ際シ何等確實ノ担保ヲ  
要求セサルハ不思議ノ至リナリト怪疑的態度ヲ以テ  
肉迫セル處同人ハ

通惠ニ於テ要求ニ且ツ目指ス所ノ担保ハ大冶地  
方ニ新設ノ熔鈔爐ヨリ製本出セラル、銑鉄ニ在リ  
象鼻山及高坑ノ開掘事業ハ眼前ニ着手  
セントスルニアラス趙椿年カ經理ノ全權ヲ帶ヒ公  
司内勤ヲ整理シ營業ノ業及達ヲ圖リ多少ノ

純益ヲ擧クルニ隨ヒ漸次此益金ヲ右等ノ企業  
振向セントスル考ナリ

ト相若ク因テ本役ハ右<sup>象鼻山</sup>象鼻山ト公司及我借款トノ関  
係ヲ闡シテハ此處ニ論議ヲ試ムル材料ヲ有セラル遺憾  
トス但シ高坑ハ原末公司ノ財産ニ屬シ我借款ノ担保  
トシテ既ニ提供セラレ居ルモノニシテ革命以來之ニ闡シテ種  
々ノ事故及生セルニ不拘本役ニ於テハ高坑ハ依然我借  
款ニ對スル担保ノ一部ヲ構成スルモノト解釈スル旨ヲ聲  
明シ更ニ語ヲ續キ大冶新熔鈔爐ニ於テ立産出セラルハ  
キ銑鉄ハ日本製鉄所ニ供給セラル、トニ取極メアレハ  
其殘部ニシテ而カモ對日契約上何等義務關係

ナシ今更ニサハ之ニ對シテ担保權ヲ設定スルヲ得サル  
者ヲ説明セシ所同人ハ前言ヲ繰返シ

通惠ハ担保トシテ高坑ヲ提供スルヲ強要スルノ意  
ナク大冶銑鉄ニ對シテハ貴説ノ如ク契約上義務  
ヲ有スル分ヲ除キ其餘ヲ以テ担保ニ提供セシメン  
トスルノ意ニ外ナラス

ト相答テ右担保ニ関スル孫ノ談話ト現ニ上海ニ於  
テ公司ニ提出セラレタル契約案担保條件トノ間ニ  
多大ノ相違アルハ注目ヲ值要スル儀ニ有之候  
次ニ本役ハ公司カ其産業ヲ抵當トシテ資金ヲ借用  
スル優先權問題ニ該及シ公司ノ外資借用ニ異シ

本行ノ優先權ヲ有スルハ契約文書ニ明記スル所ニシテ  
今更論議ヲ要セサル所ナカ聞ク所ニ據レハ民國元年  
十二月六日本行上海支店ト公司トノ間ニ往復セル文書  
ニハ其對手ノ内外ヲ問ハス公司ニ於テ産業ヲ抵當トシ  
テ借款セントスル場合ニハ必ス先ツ銀行ト協商ヲ  
要スル旨ヲ約定シアル由ナリ右文書寫ハ不<sub>レ</sub>リ当地ニ  
到着ス<sub>レ</sub>ク一覽ノ上其約旨如何ニヨリテハ或ハ借款優  
先權ニ關スル爭議ヲ惹起スルコトアルヘシトノ意ヲ同  
人ニ告知シ以テ將來之ニ關スル交渉開始ノ餘地ヲ  
留保致候  
終ニ臨ミ孫ハ重ネテ通惠今回借款ノ宗旨ハ資金

ト新人物ノ注入レ公司ノ内智ヲ救正理シ宿弊ヲ洗  
除セントスルニ在ルヲ求ム、又本役ノ質問ニ對シテ資金  
注入ノ條件トシテ請負材料ノ購入及運輸並ニ商業  
代理業ニ關スル優先權ヲ要求セシマラモ腹藏ナク相  
語リ候

是ニ於テ本役ハ詔願ヲ江西鉄道ニ對スル通惠ノ借  
款問題ニ轉シ孫ニ對シ其近狀ヲ支クヲ得ヤカト  
尋ネタル處同人ノ答フル所ニ據レハ

同鉄道ノ資金ニシテ江西人民ノ出資ニ係ルモノ約  
一百五十萬元アリ又日本側ヨリノ借款總額七百餘  
萬日アルノミナラス其他物品購入支拂代價滯モ

少カラス然レシ今ヤ同鉄道ハ資金全然欠乏シ他ヨリ  
借款スルニアラサレハ一步モ事業ヲ進行スルヲ能ハサル  
ノミナラス会社其物ヲモ維持スル能ハサル境遇ニ下リ  
交通部ノ該鉄道ニ對スル態度甚タ冷淡ニシテ  
敢シ之ヲ救済セントスル念ナク去リ迎支那官民ニ於  
テハ其位等閑ニ付スルヲ得サル事情アルカ為メ不得已  
通惠ニ於テ新ニ株券ヲ引受ケ代表者トシテ施惠  
ナルモノヲ派遣シ彼ヲシテ全然責任ヲ負ハシメ該工  
事ヲ完成セシムルヲ決セリ通惠對該鉄道ノ  
關係ハ此處ニ於テ通惠對漢冶萍ノ關係ト一  
大相遠下リ現ニ通惠ノ豫算スル所ニ於テハ明年



市道ニ換鉄道ノ要スル費用ハ工事費、物品購  
入代價、滞金支拂及日本側ニ支拂クキ借款利  
息等合計約四百五十萬元ナリ。

ト相諮リテ一方本役カ或ル信用ルキ方面ヨリ入手セル  
報告ニ拠テハ通惠カ既ニ引受ラ業諾セル鉄道株ハ二  
百五十萬元ニシテ其内不取敢五十萬元ハ財政部ヨリ  
一時融通ラ受ケテ之ヲ鉄道ニ交付シ(中國銀行ヲ  
經由スルモノト思ハル)又本年市道ニ更ニ三四十萬元ヲ  
交付スル答ナリトノ事ニ有之候、要スルニ江西鉄道ノ支  
配權ヲ通惠ニ移リツマアルハ最早疑ヲ容ル、餘地  
無之矣。

昨日本役カ通惠公司ヲ辭シ去ラントスル際孫ニ對シ  
近時日本人間ニハ通惠設立ノ本旨ハ日本人ノ利益ヲ妨  
害セン為ナリトノ議論發生シ漸次各方面ニ傳播シツ  
アルモノ、如ク近來良好ニ向ヒツアル兩國ノ感情カ此カ為メ  
急転逆行セザレハ幸ナリト諒リタル處彼ハ通惠設立  
ノ本旨ハ決シテ對日ノ目的ニアラサルハ定款ニ徴シテ之ヲ  
知り得ヘシ然ルニ目前通惠ニ對スル要求カ不奇ニモ  
日本人ト關係アル方面ヨリ提出セラレタル為メ此レ諒解  
ヲ生スルニ至リシハ遺憾ナリ、要スルニ支那官民カ自  
國ノ事業ヲ維持セントスルハ自然ノ勢ニシテ而カモ既  
定契約ニ違背セザル限リニ於テ之ヲ行ハントシ場合

二六 閣僚各方面ニ於テ之ヲ非難スルノ理ナキノミナラス  
支那側投資ノ結果カ外國側ノ債権ヲ確固ナラシ  
ムルノ結果アルニ鑑ミ寧ロ口之ヲ歡迎セラレタレト支那  
一流ノ詭弁ヲ弄セシカ孫ノ此言ハ目下支那朝野ニ  
踏ミ思想ヲ代表スルモノト觀察シテ差支無之ハ  
通惠對漢流洋債款問題ニ關シテハ尚待貴  
急度件不少矣得共郵便締切時刻相迫リ  
貴府為ニ擱筆致意此啟申進至致具

寫送付先 上海

附屬書類添附

大正四年拾月卅日 接受

大正四年十月廿九日

註記 第一課

横濱正金銀行

總支配心得代理 武内金平

(印)

有

外務大臣

男爵石井菊次郎殿

伏見

拝啓 漢冶萍公司對通惠公司借款之

義、閣下別紙寫之通り、榮り上海支店長、

別電送事、自茲、供貴覽候、敬具

上海支店長宛電信馬 (十月廿九日發)

貴殿、直接盛宜懐、面會シテ日本側意向を、  
通言明セラシタシ日本側、其方法及ヒ程度、如  
何、不均通惠公司ヲシテ漢冶萍公司ニ關係セ  
ルヲ好マズ故ニ通惠公司借款、断然之ヲ謝  
絶シタシ而シテ日本側、漢冶萍公司ノ組織ヲ變  
更シテ日支合弁トナスヲ雖又方ノ為最安全且利  
益ト信スルヲ以テ速ニ合弁案ヲ協定シタシ而シテ  
之レニ要スル資金、何程ニテモ日本側ヲ現金支  
出ヲ辭セザル覺悟ナリ此電信趣旨高木陸郎

内示差支を乞

以上

通商

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, L'D.,  
YOKOHAMA.

秘受8408號

附屬書類添附

大正四年拾月卅日 接受

註  
第 一 號

大正四年十月廿九日

横濱正金銀行

抄送者

小池政清市長殿

切通しと云ふ業株或は会社假定款と云ふ意譯  
法廷の月参考等と云ふは、修考隨見等と云ふ

（印）

9,600 July 1915.

REEL No. 1-1466

0376

通惠實業株式會社假定款

第一章 總則

第一款 本會社ハ之ヲ通惠實業株式會社ト稱ス

第二款 本會社ハ本店ヲ北京ニ支店ヲ漢口及上海ニ設

シ其他各處ノ支店ハ時機ヲ待テ適宜之ヲ設  
置ス

第三款 本會社營業科目左ノ如シ

一 各種農工商企業

二 各種農工商企業計畫及代理

三 各種金融事業ノ調整

橫濱正金銀行

四 各種公債募集ノ中付及代理

前項各種公債募集中付ニ對シテハ本會社ハ只

紹介者ノ地位ニ立テ公債ニ關スル全責任ハ募債

依托者ニ於テ之ヲ負フモノトス從テ募債依托者

ニ對シテ相當保証ヲ請求スルヲ得

前項各事業ヲ營ムニ當リ統轄官省或ハ地方

官廳ノ許可ヲ要スルモノハ隨時申請ス

元  
第四款 本會社株式總額ハ銀五百万トシ其四分一以

上ノ拂込ヲ待テ開業ス

第五款 營業年限ハ本店開業ノ日ヨリ滿三十ヶ年トス

満期ノトキハ株主總會ノ決議ヲ經テ期限延

長ヲ申請スルヲ得

3,000 Feb. 1910

第六款 本會社廣告事項ハ北京政府公報及主要通商港ノ新聞紙ニ登載ス

第二章 株式

第七款 本會社ノ株式ハ總數ヲ五万株トシ一株ノ金額ヲ

銀一百元トス 株券ハ記名式トシ一株券十株券百株券ノ三種トス

第八款 本會社株式ハ創立委員ニ於テ百五十萬元ヲ引受ケ六ヶ月内ニ拂込濟ノ上株主名簿ヲ作り當該官省ニ届出ツルモノトス

前項拂込ノ百五十萬元ハ之ヲ優先權<sup>株</sup>トス

第九款 本會社株券讓渡規則ハ別ニ之ヲ定ム

橫濱正金銀行

毎期株主總會前三十日間株券名義書換ヲ停止ス

第三章 職員

第十款 本會社ハ總裁一人副總裁一人ヲ置ク取締役之ヲ推選シ財政農商兩省ニ具申シ大統領ノ允許ヲ受ク

第十一款 本會社ニ總支配人一人ヲ置ク取締役ニ於テ株主中ヨリ二人以上ヲ推選シ總裁其中一人ヲ選任シ農商省ニ届出ツシ總支配人ノ任期ハ五ヶ年ニシテ重任スルヲ得

第十二款 本會社支配人ハ總裁之ヲ委任ス

3,460 Feb. 1915.

第十三款 總支配人ハ業務ヲ總理シ支配人ハ業務ヲ執行ス  
第十四款 本會社ニ總會計(計算總長)一人ヲ置ク取締役  
役會ニ由テ二人以上ヲ推薦シ總裁中一人ヲ委任ス

#### 第四章 取締役監査役

第十五款 本會社ニ取締役十三人監査役五人ヲ置ク取締役  
ハ二百株以上ヲ有スル株主監査役ハ百株以上ヲ有ス  
株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選<sup>出</sup>キス  
但取締役ノ過半数ハ優先株主タルコトヲ要ス  
第十六款 取締役ノ任期ハ三年、監査役ハ一年トシ再任スルヲ  
得、但取締役ハ會社成立後第一期任期満了ノ  
時ニ當リ其年數ヲ改選ス

#### 横濱正金銀行

取締役トナリタル者ハ株券二百株ヲ提出シ二人以上ノ  
監査役立會封緘ノ上會社ニ保管ス、若シ十五日  
間ヲ經過スルモ該株券ヲ提出セザレバハ取締役<sup>被</sup>選者  
中ノ次者ヲ以テ之ヲ補欠ス

第十七款 取締役會ハ會社各種ノ規則ヲ議定シ重要業  
務ヲ討論スルノ責ヲ負フ

第十八款 取締役會ハ總裁ヲ以テ正會長、副總裁ヲ以テ副  
會長ト為ス、總支配人ハ取締役會ニ參與スルヲ  
得、但議決權ヲ有セス

第十九款 取締役會ニ會社重要事宜ヲ諮詢スル為メ諮  
議及顧問員(相談役)ヲ推薦スルヲ得、諮議及  
顧問員ハ定數ナシ但特別ノ緣由アルニアラサレハ

3,000 Feb. 1916.



俸給ヲ與フルヲ得ス

第五章 株主總會

第二款 株主總會ハ之ヲ定期總會又臨時總會ニ種トス

第三款 定期總會ハ毎年四月兩締役會之ヲ召集シ本座ニ於テ開會ス

第三款 臨時總會ハ重要事件アル中總裁ト兩締役會ト決議上之ヲ召集ス又株主七人以上其特持株總株式十分一以上ニ登ル者ハ提議事項ヲ聲明シ總裁ニ申請シテ之ヲ召集スルヲ得

第三款 株主總會ハ總裁ヲ以テ會長トス總裁欠席時ハ副總裁之ニ代ル

横濱正金銀行

第四款 株主總會ニ於テハ一株毎ニ一議決權ヲ有スルモノトス出席株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ決議ス可否同數ナルハ會長之ヲ決定ス

第五款 株主カ總會ニ出席シ得サル中他ノ株主ニ委任代理セシメ又ハ總裁カ認可セル代理人ヲ以テ代理出席セルヲ得

第六款 株主總會開會三十日前ニ會社ヨリ時日會場及事由ヲ各株主ニ通知スヘキモノトス定款ヲ更改セントスル場合ニアリテハ其議案ヲ配付ス

第六章 結算

3,400 Feb. 1916.

第七款 毎年三月末日ヲ以テ本會社結算期ト為ス

第八款 毎結算期所淨ノ純益金ヲ左ノ如ク十二ニ案分ス

一分 公積立金（法定積立金）

一分 準備積立金

二分 優先株特別配當

七分 通常配當但優先株ニ均分スルモノトス

一分 職員慰勞金

第九款 總支配人ハ毎年結算期ニ財産目錄、貸借對

照表、營業報告書、損益計算書ヲ作成監査

役ノ檢査ヲ經テ副總裁ニ具シ總會ニ提出シ其

議決ヲ請フモノトス

第七章 附則

橫濱正金銀行

第三款 本會社定款ニ変更ヲ要スル時ハ取締役會ニ於テ

原案ヲ起草シ株主總會ノ修正決議ヲ經テ當

該官省ニ届出ツル

其他定款ニ規定ナキハ株式會社條例ニ據リ處

理スヘキモノトス

第三款 本文店營業規則ハ總支配人之ヲ起草シ總裁ニ

申請シ取締役會ノ決議ヲ經テ施行ス

3,600 Feb. 1916.

農商省へ登記ヲ申請スル文

註冊ノ事ヲ稟請ス竊ニ敝會社創立委員孫多森等  
本年七月貴省一三〇七號令ヲ以テ大總統ノ批准ヲ蒙リテヨ  
リ創立員等極カ籌畫積極進行スルコトニケル月爾來大極  
開會株式、募集營業ノ計畫ヲ評論シ人々各處ニ派シテ  
準備ニ着手セシメ事勢繁重郵便電信紛馳聊カ懈怠  
スル所ナシ惟始ヲ慎ミ以テ終ヲ圖ル可ク本創立委員貴部  
ノ提倡ヲ辱シ自ラ當ニ國家事業ヲ發達セシメ社會生計ヲ  
扶助スルヲ以テ念トシ公益ヲ圖リ私利ヲ圖ラス遠效ヲ求メテ  
近功ヲ計ラスカメテ壟斷ノ類凡ソ除キ羣倫ノ趨向ヲ與起  
シ上期望ノ殷賑ニ副ハントス今公議ノ上確定セル方針數項

横濱正金銀行

一ニ曰ク趣旨ヲ明定ス、二ニ曰ク慎テ人材ヲ登用ス、三ニ曰ク  
信用ヲ養成ス、四ニ曰ク營業次第凡此數項皆宜ク未ダ  
兩ラサレニ綢繆ノ事前ニ規定ス可ク若シ始ニ或ハ疎虞アラ  
ンカ流弊滋生シテ營業發展ノ期シ難シ茲ニ擬シテ辦法綱  
要四條ヲ具シテ後ニ附陳ス、會社株式ニ至リテハ已ニ原議ノ  
如ク創立委員ニ於テ一百五十萬元ノ醵出シ全部拂込ラシ  
中國交通塩業三銀行ニ均分ニ預金シアリ以テ貴省員ノ出  
張查驗アランコトヲ請フ、當初本會社開業準備ハ原大ケ  
月ヲ以テ期トナスト雖モ目下業務ノ着手ヲ待ツモノ多ク株式  
應募亦頗ル好況ナルヲ以テ公議ノ上敏速ニ進捗ヲ圖リ三ヶ  
月内ニ一切準備ヲ了シ事業ニ着手セントス、茲ニ會社ノ通  
例ニ倣ヒ臨時取締役十三人ヲ互選シ且互選シテ孫多森ヲ

3,000 Feb. 1915.

臨時總裁 施肇曾ヲ臨時副總裁ト為シ臨時監查役五人ヲ  
互選シ假定款三十一條ヲ具シ日ヲ擇ビテ開業セントス本名ヲ  
北京ニ設ケ其他上海漢口支店ハ逐次分設ス可シ株式募集  
洲上ハ再株主總會ヲ開キ法律ニ遵ヒテ取締役等一切人員ヲ  
選舉シ正式ニ成立ヲ期ス、會社登記章程(會社法)第四  
條ニ照シ應ニ登記スヘキ各項ヲ列ビ記シ且定款取締役選  
舉名簿并ニ登記料三百元相添、貴部查察ノ上大總  
統ノ允許ヲ呈請セラレントヲ請フ

農商省許可状

四年九月二十五日農商省ノ批ヲ奉ス曰ク、孫多森等稟稱スラ

橫濱正金銀行

通惠實業株式會社籌設ノハ業ニ轉々批准ヲ蒙レリ創立  
委員等即チ極力籌畫積極進行シ株式ハ已ニ原議ノ如ク  
創立委員ニヨリテ百五十萬元ヲ豫出シ全額拂込ラシメ中國  
交通鹽業三銀行ニ預金シテハ查檢ヲ請フ茲ニ臨時取締  
役十三人ヲ互選シ並ニ互選シテ孫多森ヲ臨時總裁施肇  
曾ヲ臨時副總裁ト為シ又臨時監查役五人ヲ互選シ本名ヲ  
北京ニ設ケ其他上海漢口支店ヲ逐次分設ス、假定款、取締  
役名簿並ニ登記料三百元ヲ相添、查核轉呈ヲ請フト、  
查スルニ該會社株式ハ前記載ノ如ク已ニ百五十萬元拂込ラシメ  
中國交通鹽業三銀行ニ預金セルヲハ本省ヨリ書信ヲ以テ支  
ト吏ニ照會セシニ何レモ確實ナリト回答ニ接シタリ假定款等  
ノ件ヲ閱スルニ其大要宜キニ叶ヘリ登記ヲ許シ許可書ヲ

3,249 Feb. 1915.

發給スヘシ登納付ノ登記料ハ法規ニヨリ二百元ヲ納クキモノナル  
ヨリ過剩一百元ハ之ヲ還付ス本件ハ大總統ノ呈請シ且ツ京北  
尹(北京知事)ニ通牒シテ保護ヲ加ヘシテ可シ、批示ス遵照セヨ、

大總統許可書

四年九月二十六日大總統ノ批令ヲ奉ス農商省呈出スル所ノ  
通惠實業株式會社登記ノ許シ事情具申ノ件具申ノ通  
批准ス

横濱正金銀行

3,000 Feb. 1914.

通惠實業株式會社假定辦法綱要四條

一曰、趣旨ヲ明定スルヲ

本會社營業ハ本ト保育主義ヲ取ル然ルニ範圍既ニ廣ク  
一タヒ傍觀<sup>端</sup>測セハ壟斷ノ嫌ニ陥リ易シ若シ趣旨ヲ明定セザ  
レハ或ハ將來事ヲ處スルニ宜シカラス貴省提倡ノ盛意ヲ無ニセン  
トヲ恐ル創立委員等迭ニ討論シ趣旨ノ了<sup>レ</sup>所ヲ以テ詳晰聲  
明シ群衆ヲシテ翻然タラシメ誤解ヲ免カレン<sup>ト</sup>ヲ庶幾ス、三曰、  
在國家會社ハ國家ノ保護ヲ兼ケ屬望ヲ維持スル厚カラ  
スト云フ可カズ此屬望ニ副フ所以ヲ求メハ自ラ當ニ細心熟慮  
現時ノ大勢ヲ審ミ内國ノ情形ヲ察シ其<sup>國</sup>計ニ益アルモノヲ擇テ  
積極進行シ以テ得寸得尺ノ計ヲ為ス可シ苟クモ私利ヲ營ミ

橫濱正金銀行

國家ヲ害スルノハ宜ク之ヲ避ク<sup>ハ</sup>是レ明定ス<sup>ル</sup>キモノノ一ナリ、  
ニ曰ク、在社會 民生衰敝シテ百業興ルヲ待ツ、官府勢一々  
人民ニ代リテ謀ル能ハス又先河ノ導キ無キニ苦ム、是ヲ以テ或ハ  
物材有テ製作ヲ肯セス、或ハ貨産有テ流通ヲ知ラス、哇シテ  
富源ヲ推シテ日々貧乏ヲ憂フ職トシテ是ノ故ナリ、本會社  
敢テ先覺ノ資ヲ負フニアラサルモ誠ニ社會ト相互ニ觀摩<sup>テ</sup>シ  
相互ニ補翼シ其滯隱ヲ通シ其需求ニ應スルヲ願フ只公共  
樂利事業ニ於テ聊カ能ク力ヲ盡ス所アラニ<sup>ト</sup>テ期ス断シテ  
敢テ挑作争奪ヲ以テ心ト為サス是レ宜シク明定ス<sup>ル</sup>キモノノ  
二ナリ、

三曰ク、在同利 本會社營業性質タルヤ豈能ク利害ヲ  
計ラサランヤ但シ商ニシテ通ト云フ決シテ一人ノカニ非スエニシテ惠

3,400 Feb. 1910.

ト曰フ己ニ普及ノ意ヲ含ム。本會社ハ名ニ顧ミ義ヲ思ヒ凡ソ實業ヲ振興スルキモノアルニ遇ヘハ固ヨリ敢テ無責任ニ放擲セス又敢テ利権ヲ把持セス冀フ所ハ群策群力各其分ニ應レ公利ヲ先ニシテ私益ヲ後ニシ眼前ノ小利ヲ捨テ遠大ノ謀ヲナスニアリ是レ宜ク明定スヘキモク三ナリ。

二曰ク、慎テ人材ヲ登用ス

事ヲ辦理スルノ得失ハ繫テ用人ニアリ實業ノ成敗得失人ヲ得ルヲ以テ第一要義ト為ス本會社總支配人ヨリ以下其職任既ニ上中下ノ等級アリ其才地亦應ニ其宜ニ違ス可シ任用ノ際重キヲ經驗ニ置クモノアリ。専門家ヲ聘用スルアリ大極學識才器選擇ヲ精シ品行守操ノ甄察ヲ嚴ニセサルヘカラス且本會社ノ企畫已ニ久遠ナリ當ニ十年植樹ノ計ヲ為シ輻材較材併セ得ルノ

横濱正金銀行

功ヲ樹ツヘキナリ是ヲ以テ一面現在ノ人オヲ求メテ當時ノ任使ニ應セシメ一面後継人オヲ求メテ隨時ノ更替ニ備フシ此外更ニ須ク後進ヲ培養シ大厦ニ良材ヲ集メ他日欠之ノ虞ナカラシム功過ノ勸懲精神ノ訓練俸給々異ノ策意見ノ調和ニ至ラテハ全ク使用者ニ於テ權衡高下出スニ大分ヲ以テシ明決以テ之ニ應スルニ足ラハ始メテ人ニ因テ事ヲ<sup>壞</sup>慮ナキヲ得シ。

三四ク、信用養生<sup>成</sup>ノコ

資本ハ營業ノ生命タリ信用ハ營業ノ精神タリ精神不振ニシテ生命延長スルキモノ未ダアラサルナリ即チ信用昭ナラスレテ營業ノ發展ヲ得ルモノハ未ダアラサルナリ吾國人ノ創設經營スル各種會社往々數十百万ト計上セラルレニ計畫散漫

3,900 Feb. 1916.

基礎固カラス故ニ成功ノ期シ雅キヲ幾ント商業ノ通弊ヲ  
本會社竊ニ維ル商人ノ要義ハ主トシテ虚浮ヲ戒メ業務ヲ  
擴張スルヤ真誠偽リナキニ基スルニアリ創業ノ初メ株式招募  
ニ對シテハ務メテ的實ヲ求メ敢テ聊モ架空ニ涉ラス事前ニ一  
切ヲ籌備シテ務メテ内容ノ充實ヲ求テ敢テ外觀ヲ虚飾セス  
将来各業ヲ經營シ人ノ委託ヲ受クルモ皆會社實際能力ノ  
及フ所ヲ圖リ外界ト推誠相見工冒險ニ籍口ニテ投機事業ノ  
所為ニ做フヘカラス庶幾クハ信用積ニテ漸ク強固トナリ持久不  
敗ノ地ニ自立スルニ至ルヲ得ン。

四曰ク、營業次第

本會社ノ着手スルキ事業甚タ多シト雖モ一時ニ興シ雅ク  
亦一時ニ着手スルカナン當ニ次第ヲ分テ逐漸進行之キナリ

橫濱正金銀行

創立委員等屢々商議シ營業辦法ヲ預計シ先ツ銀行ヲ  
設立シ本會社金融ヲ圓滑ナシメ繼テ各種<sup>有利</sup>事業ニ着手ス  
本會社實力如何、事業性質、難易及各種事業ニ當ル  
人材ノ多寡如何ニ視テ序ヲ逐テ推行ス商戰ノ術ハ用兵  
ニ等シ<sup>必ス</sup>須ク實力ヲ充養シテ節次前進シ歩々營業ヲ為シ  
着々相顧ミ其聯絡貫通スルヲ待タハ機關靈活進テハ  
以テ戰フヘク退テハ以テ守ルヘシ已ヲ知り彼ヲ知り庶幾クハ過ナ  
カルヘシ若シ大勢ノ趨ク所ヲ察セス強弱ノアル所ヲ審ニセス野戰  
ニ冒險シ成功ヲ僥倖スルカ如キハ必勝ヲ籌ルノ道ニ非ルナリ

通惠實業株式會社職員

總裁 孫多森、副總裁 施肇曾

取締役 十三人 阿穆爾靈圭、梁士詔

3,000 Feb. 1918.





横濱正金銀行

施肇曾	雲和德	張鎮芳	袁乃寬
李士偉	傅增湘	李湛陽	袁克文
孫多森	王錫彤	薩福楸	
監查役五人	王克敏	黃忠績	孟繼笙
龔心銘	區昭仁		
相談役五人	載振	楊士琦	周學熙
周自齊	周鷗		

3,600 Feb. 1915.

附屬書類添附

大正四年拾月卅日 接受  
大正四年十月三十日

駐政務員

第 一 書

横濱正金銀行

後支取心持代理 武内金平

秘受941C號

秘受

外務大臣男青石菊治郎殿

拜啟 漢語譯字對通惠等借款契約付帶  
條件秘密ノ理由ニ付高木陸郎依頼ニ基キ別  
紙寫ノ通り上海滄支店ヲ電報有之質問為ニ  
修内覽願 敬具

上海支店未電寫 (高木陸郎依頼)

十月 二十九日 著  
三十日 著

高木陸郎依頼ニ付此段電報致候  
通惠公司借款契約付帶條件北京側ニ當方  
へ絶對ニ秘密ニ為スルニ盛宣懷ニ要求セリ理  
由ハ付件第三條カ日本支那協約ノ精神ニ遠反  
ニ居ルカ故ナリ

文書部長 大正四年拾月三日 受取

大正四年 十月 廿九日 同 年 全 册

第一課 封

大正四年拾月 機密送第一二八號

石井外務大臣

武蔵大藏大臣宛 各道局長 通商公司 對漢治萍

公司借款 関係件

外務省

本件：関係別紙書在支  
小幡代理公使 訓導長  
軍務局長 知相成者  
中 謀 進 修 也

別紙通惠公司以下寫添付、但先書  
通訂正ニ朱格孤内ニ當下